

1年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

①記憶の心理 ②動機の心理 ③性格・知能の心理 ④発達の心理 ⑤心理アセスメントの概要 ⑥行動する人間の理解 について理解する。

(教育目標)

心理学上の重要な概念を幅広く理解する。またそうすることで国家試験に備える。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	記憶のしくみ(記憶とは何か・感覚記憶・短期記憶・長期記憶)	寶地 沙紀	講義
2	2	・記憶のしくみ(忘却、何故忘れてしまうのか・エピソード記憶と意味記憶) ・高齢者の記憶の特徴(展望記憶・物忘れへの記憶方略)	寶地 沙紀	講義
3	2	感情とは何か・ジェームズラング説とキャノンバード説	寶地 沙紀	講義
4	2	動機・欲求とはなにか／外発的動機と内発的動機	寶地 沙紀	講義
5	2	・タイプA性格と『死の受容(キューブラー・ロス)』 ・マズローの欲求階層説・心的飽和・要求水準	寶地 沙紀	講義
6	2	エリクソンの心理社会的発達理論について(幼児期)	寶地 沙紀	講義
7	2	エリクソンの心理社会的発達理論について(学童期)	寶地 沙紀	講義
8	2	エリクソンの心理社会的発達理論について(青年期)	寶地 沙紀	講義
9	2	エリクソンの心理社会的発達理論について(老年期)	寶地 沙紀	講義
10	2	エリクソンの心理社会的発達理論について(まとめ)	寶地 沙紀	講義
11	2	エリクソンの心理社会的発達理論について／操作・表象・自己中心性について／アタッチメント	寶地 沙紀	講義
12	2	・フラストレーションとコンフリクト／性格に関する概念について ・クレッチマーの性格理論・フロイトの性的発達論的性格理論 ・ユングの性格理論	寶地 沙紀	講義
13	2	知能検査について(ビネー式・ウェクスラー式)・知的障害について	寶地 沙紀	講義
14	2	心理アセスメントの概要(投影法によるアセスメント質問紙法によるアセスメント)	寶地 沙紀	講義
15	2	防衛機制について・まとめ	寶地 沙紀	講義

総括的評価

筆記試験により評価します。

教科書：看護学生のための心理学(医学書院)

参考書：随時必要な資料はプリントにて配布します

その他の資料：

担当教員から

人の心は目に見えにくいものですが、人の言動からその時の心理状態は推察できます。医療職に就く者として、結果だけでなく、心理学を学ぶことで、患者様の苦しみや喜びに目を向けることが出来るセラピストになって欲しいと思います。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

実習先や実際の職場では、挨拶・返事・相手を尊重した言葉遣い、動作、きちんとした立ち居振る舞いが信頼される要素となる。また専門知識はもちろん、現場ではコミュニケーション能力が重要視される。そのような社会人としての基本を身に付ける。さらに、語彙や表現方法に注意しながら、目的に合った文章を書いてみる。また、「文章読解・作成能力検定」3級に合格することを目指す。

(教育目標)

- 1 社会人として知っておきたい基本的な敬語、漢字、ことわざ等を学ぶ
- 2 文章を読んで筆者の言いたいことを理解する・・・相手の気持ちを汲み取る
- 3 相手に伝わる意見文を書く・・・自分の言いたいことを客観的にきちんと伝える

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	授業オリエン、なぜ国語力が必要か？、T.P.Oに合わせた自己紹介、語彙ドリル	大橋 晶子	講義
2	2	語彙ドリル、『ステップ』第一章 語彙・文法(意味・用法)	大橋 晶子	講義
3	2	語彙テスト、『ステップ』第一章 語彙・文法(文法)	大橋 晶子	講義
4	2	語彙ドリル、『ステップ』第二章 資料分析(グラフ・表の読みとり)	大橋 晶子	講義
5	2	語彙ドリル、『ステップ』第二章 資料分析(分析の注意点)	大橋 晶子	講義
6	2	語彙テスト、『ステップ』第三章 文章読解(指示語等、段落)	大橋 晶子	講義
7	2	語彙ドリル、『ステップ』第三章 文章読解(構成、要旨)	大橋 晶子	講義
8	2	語彙ドリル、『ステップ』第四章 手紙文(手紙の知識、敬語)	大橋 晶子	演習
9	2	語彙テスト、『ステップ』第四章 手紙文(適切な表現、推敲)	大橋 晶子	演習
10	2	語彙ドリル、『ステップ』第五章 意見文(事実・意見・感想、意見文の構成)	大橋 晶子	演習
11	2	語彙ドリル、『ステップ』第五章 意見文(理由の述べ方のポイント、意見文作成)	大橋 晶子	演習
12	2	語彙テスト、『ステップ』第五章 意見文(解説、書き直し、清書)	大橋 晶子	演習
13	2	語彙ドリル、『ステップ』まとめ問題	大橋 晶子	演習
14	2	語彙ドリル、文章検3級過去問題(実施)	大橋 晶子	演習
15	2	語彙テスト、文章検3級過去問題(解説、意見文清書)	大橋 晶子	演習

総括的評価

小テスト、提出物、期末テストによる評価

教科書：『基礎から学べる！文章力ステップ文章検3級対応』（公益財団法人日本漢字能力検定協会）※授業で使用。  
『文章検公式テキスト3級』（公益財団法人日本漢字能力検定協会）※宿題として毎回、学習部分を宿題として使用。

参考書：必要に応じて提示

その他の資料：

担当教員から

読解力は相手の言わんとすることを汲み取ることに、また文章力は自分の言いたいことを相手に伝えることにつながります。医療現場ではコミュニケーション能力が必要だということを認識し、信頼される医療人となるべく国語力を高めて欲しいです。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 前期（1単位：30時間）

（授業概要）

私たちが生きている現代社会の実情をいろいろな角度から見つめ直し、正しいものの見方・考え方を探求する。

（教育目標）

「哲学する」ことの意味、私たちの知識、人間のとらえ方、社会で生じている（とくに医療、環境）問題を検討し、今後の生き方についての土台形成をめざす。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	「哲学」についてのイメージ、「哲学」という言葉の由来	種村 完司	講義
2	2	「哲学する」きっかけ、哲学は役に立つか	種村 完司	講義
3	2	医療と哲学 — 身体や病気をどうみるか	種村 完司	講義
4	2	「リンゴは赤いか」「見えるものはすべて真実か」	種村 完司	講義
5	2	「こころ」と「からだ」（その1）	種村 完司	講義
6	2	「こころ」と「からだ」（その2）	種村 完司	講義
7	2	人間とはどういう存在か、人間の尊厳とは	種村 完司	講義
8	2	現代医療の中で発生している哲学・倫理問題（1）—「脳死」と死の判定	種村 完司	講義
9	2	現代医療の中で発生している哲学・倫理問題（2）—「臓器移植」	種村 完司	講義
10	2	現代医療の中で発生している哲学・倫理問題（3）—「安楽死」	種村 完司	講義
11	2	現代医療の中で発生している哲学・倫理問題（4）—「尊厳死」と緩和ケア	種村 完司	講義
12	2	地球環境・生態系はどういう現状か	種村 完司	講義
13	2	環境問題をめぐってどんな倫理が必要か（その1）	種村 完司	講義
14	2	環境問題をめぐってどんな倫理が必要か（その2）	種村 完司	講義
15	2	「持続可能な社会」にむけて私たちがすべきこと	種村 完司	講義

総括的評価

毎回の感想文と最後の筆記試験

教科書：とくになし

参考書：授業の中で紹介する

その他の資料：授業中、必要な資料を配布する

担当教員から

私たちの周りにある出来事や現実をよく見すえながら、今日の社会の中でどう判断し、どう行動し、どう生きていったらよいかについて、じっくり考える機会にしよう。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

①社会福祉に必要な基礎知識を学ぶことをねらいとし、わが国における人口の高齢化の背景やその特徴、地域福祉や生活保護、高齢者虐待、政権後見制度等を多面的に学び、高齢者や障害者等が生活する「現代社会」について理解し、そのうえで、生活状況の実際や生活の中から生まれてくる福祉ニーズとはどのようなものなのかについて理解する。  
 ②社会福祉の理念や意義について理解させ、社会福祉の歴史、制度や法体制、社会福祉サービスの役割と活動、社会福祉専門職の役割について理解させる。また、現在の社会福祉の動向と問題、これからの課題を理解させる。利用者を中心に各専門職での連携の意義や必要性について理解する。

(教育目標)

①社会福祉に関する基礎知識について理解し、福祉専門職と連携していく視点を意識していく。また、介護保険制度や地域包括支援センター、権利擁護についての理解や地域福祉を始め保健・医療・福祉における連携について理解する。さらに、社会福祉における現代社会の課題を理解し、社会福祉とリハビリテーションとのつながりを考える。  
 ②社会福祉学の概念・対象・分野について学び、各専門職の現状・課題について理解したうえで、連携のあり方について学習する。その上で保健医療福祉の公的介護保険制度、障害者自立支援法等の福祉関係制度、法規、保健・医療制度、社会保険制度を含めた社会保障を学ぶ。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	社会福祉学の概観と平均寿命、高齢化、健康寿命、要介護高齢者の推移	下木 隆史	講義
2	2	高齢者をとりまく社会環境の変化と介護保険制度の誕生	下木 隆史	講義
3	2	介護保険制度とは、目的、特徴、課題	下木 隆史	講義
4	2	介護保険制度について(利用の流れ、サービス事業者、職種等事例含む)	下木 隆史	講義
5	2	孤独死や悪徳商法、地域包括支援センターの概要、役割や課題、事例含む)	下木 隆史	講義
6	2	介護予防、地域包括ケアシステムについて、地域福祉の担い手(ボランティアやNPO等、事例含む)	下木 隆史	講義
7	2	権利擁護とは、日常生活自立支援事業(事例含む)、成年後見制度(事例含む)	下木 隆史	講義
8	2	高齢者虐待防止法(概要や現状、課題、事例含む)、生活保護制度(原理・原則、保護の種類)	下木 隆史	講義
9	2	「現代社会と社会福祉」・社会福祉制度の成立と社会福祉サービスを理解する。	下木 隆史	講義
10	2	「医療保険と年金制度」・医療保険と諸年金制度の背景と成立を理解する。	下木 隆史	講義
11	2	「児童家庭福祉の現状と及び課題」・児童家庭福祉の理念と家族の現状を考える。	下木 隆史	講義
12	2	「障がい者福祉サービスの現状と課題」・障害の考え方と国際的な流れを理解する。	下木 隆史	講義
13	2	「地域福祉サービスの現状と課題」・地域社会と福祉サービスの結びつきを考える。	下木 隆史	講義
14	2	「保健・医療・福祉サービス」・健康増進や疾病予防のための様々な公的サービスについて考える。	下木 隆史	講義
15	2	「社会福祉の課題と動向」・社会福祉基礎構造改革の背景について学び今後の福祉制度を考える。	下木 隆史	講義

総括的評価

小テストおよび前期試験

教科書:  
 特になし。授業中にプリント配布。

参考書:  
 ①新・社会福祉士養成講座『現代社会と福祉』(中央法規)  
 ・『国民の福祉と介護の動向』(旧『国民の福祉の動向』)厚生統計協会  
 \*その他、講義中にも紹介する。  
 ②ミネルヴァ書房「社会福祉六法」

その他の資料:  
 社会福祉関連した新聞記事等

担当教員から

①実践の場で提供されている多職種連携について理解を深めること。また、普段から新聞やテレビのニュース等を通して社会福祉やそこで起きている問題などに関心を持ってもらいたい。②国試対策にも考慮した授業内容に心がけますが、自分なりに予習復習をして、授業に臨んでください。疑問点は、そのままにせず、質問してください。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 後期（1単位：30時間）

（授業概要）

「教育」とは、「人間」とはという根本的な問いから始まり、改めて教育・学びの意味を再確認することで、今後の自分の在り方、勉強に対する姿勢を見直す。また、現在学校が抱えている課題や、国際化・多文化共生という視点からも教育の意義を考えていく。

（教育目標）

人間が生きていく上での「教育」の意義について再認識し、理解を深める。また、国際化が進む中で、多文化共生を目指す社会における「教育」の在り方を考える。さらに、医療現場における学び・人間関係・教育の在り方についても改めて考える。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	ガイダンス	別府 一誠	講義
2	2	よい教育ってどんな教育	別府 一誠	講義
3	2	教育を社会の視点から考えてみよう	別府 一誠	講義
4	2	子どもという存在／人間という存在	別府 一誠	講義
5	2	教え方は試行錯誤されてきた	別府 一誠	講義
6	2	教育を受ける権利	別府 一誠	講義
7	2	子どもの学びを支える仕組み	別府 一誠	講義
8	2	子どものための学校ってどんな学校？	別府 一誠	講義
9	2	学校では何を学ぶの？	別府 一誠	講義
10	2	よい先生ってどんな先生？	別府 一誠	講義
11	2	どんなふう子どもに接したらよいのか？	別府 一誠	講義
12	2	子どもがよく学ぶためには？	別府 一誠	講義
13	2	学校を卒業したら学ばなくてもよいのか？	別府 一誠	講義
14	2	教育と学校の未来はどうなるの？	別府 一誠	講義
15	2	まとめ	別府 一誠	講義

総括的評価

各授業で配布するプリント提出、授業態度、試験による評価

教科書：勝野正章 著『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015

参考書：

その他の資料：授業で適宜配布する。

担当教員から

教育も医療も人と人との関わりの中で成立しているものと言える。教えるということだけが教育ではなく、学び合うことこそ教育の原理であり、学校という枠の中だけで行われるものを指すのではない。人は一生学び続ける生き物であり、だからこそ成長し喜怒哀楽という感情を備え、常に発達し続けるものである。学ぶ喜び、教育の大切さを再認識できる場になればと考える。

実務経験のある教員による実践的授業

授業科目名：生物学

担当教員：鮫島 正道

1年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

医療専門職として身につけるべき職業意識を育成し、理学療法学の基礎を形成する理論や理学療法を実施していく上で必要な知識の習得を促す。

(到達目標)

医学における基礎領域の科学である「生物学」を学ぶことは、学生にとって広い視野を持ち、自立した専門家となるために不可欠な基礎能力を高めることであるといえる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	生物学の概念と全体像をつかむために	鮫島 正道	講義
2	2	生命体のつくりとはたらき(生物学における構造と機能について)	鮫島 正道	講義
3	2	生体維持のエネルギー(生物内の化学反応について)	鮫島 正道	講義
4	2	細胞の増殖とからだのなりたち(細胞分裂・細胞の分化・細胞の老化)	鮫島 正道	講義
5	2	遺伝情報とその伝達・発達のしくみ(遺伝の法則と染色体)	鮫島 正道	講義
6	2	生殖と発生(無性生殖と有性生殖)1	鮫島 正道	講義
7	2	生殖と発生(無性生殖と有性生殖)2	鮫島 正道	講義
8	2	個体の調節(ホメオスタシス・各器官系のはたらきについて)1	鮫島 正道	講義
9	2	個体の調節(ホメオスタシス・各器官系のはたらきについて)2	鮫島 正道	講義
10	2	刺激の受容と行動(神経系における情報処理の特徴)1	鮫島 正道	講義
11	2	刺激の受容と行動(神経系における情報処理の特徴)2	鮫島 正道	講義
12	2	生命の進化と多様性(進化のしくみについて)1	鮫島 正道	講義
13	2	生命の進化と多様性(進化のしくみについて)2	鮫島 正道	講義
14	2	生物と環境のかかわり(生物の集団・生態系の経済について)1	鮫島 正道	講義
15	2	生物と環境のかかわり(生物の集団・生態系の経済について)2	鮫島 正道	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。  
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：医学書院 系統看護講座 基礎分野 生物学

参考書：随時、必要な資料はプリントして配布する。

その他の資料：

担当教員から

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 前期（1単位：30時間）

(授業概要)

ニュートン力学について、いろいろな法則や仕組みについて学び、関節にみられるてこやモーメントの仕組みについて学ぶ

(到達目標)

ニュートン力学やこの原理を理解し、理学療法学作業療法の治療に応用できるようになる。また、理学療法国家試験や作業療法国家試験の物理分野の問題は解けるようになる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	力の合成と分解（国家試験を意識して、三角関数なども含めて講義）	時任 真幸	講義
2	2	生体におけるてこ	時任 真幸	講義
3	2	重心の求め方	時任 真幸	講義
4	2	重心の速度・加速度	時任 真幸	講義
5	2	床反力と重心加速度	時任 真幸	講義
6	2	床反力作用点(COP)とは何か	時任 真幸	講義
7	2	関節モーメントと筋活動	時任 真幸	講義
8	2	関節モーメントとパワー	時任 真幸	講義
9	2	ジャンプ動作のバイオメカニクス	時任 真幸	講義
10	2	立ち上がりのバイオメカニクス	時任 真幸	講義
11	2	歩き始めのバイオメカニクス	時任 真幸	講義
12	2	歩行のバイオメカニクス1 重心と床反力作用点	時任 真幸	講義
13	2	歩行のバイオメカニクス2 重心の動きを滑らかにする機能	時任 真幸	講義
14	2	歩行のバイオメカニクス3 歩行の観察－OGIGの方法－	時任 真幸	講義
15	2	過去の国家試験の物理に関する問題の演習	時任 真幸	講義

総括的評価

後期筆記試験にて行います。小テスト実施状況にて加点を行います。

教科書：基礎バイオメカニクス第2版、基礎運動学第6版補訂

参考書：

その他の資料：必要に応じてプリントを配ります。また、スマコク上に小テストをupします。

担当教員から

物理はわかりにくい部分もありますが、人体の動きを理解するには大変重要な科目です。コツコツ勉強して、理解を深めてもらいたいと思います。

実務経験のある教員による実践的授業

2年次 前期(1単位:20時間)

(授業概要)

身長や体重といった身体測定で得られる結果からわかるように医療の現場においても統計的データ処理が必要となる。得られたデータからヒストグラムや平均、分散を求め、さらに平均値の推定、算出された平均値の信頼性判断のための信頼区間、および仮説検定を学ぶ。さらにアンケートの解析のためのカイ二乗検定、データ間の関係を求める相関係数の導出法を提供する。

(教育目標)

1 統計学がどのような場面で使われているかを学ぶ。 2 散らばりとしての尺度「分散」を理解する。 3 ヒストグラムから正規分布を理解させる。 4 z表の見方を学ぶ。 5 推測されたデータの信頼度の判定法を学ぶ。 6 対立仮説と帰無仮説を学び、立てた仮説の検証方法を学ぶ。 7 2値データのアンケート解析でよく使用されるカイ二乗検定について学ぶ。 8 実際に得られたデータがその後どのような軌跡を描くかを予想する方法「最小二乗法」を学ぶ。 9 2つの事柄の関係性を数値で表す「相関係数」について学ぶ。 10 まとめ

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	PCの起動と終了、および外部機器の接続と取り外し	黒木 辰朗	講義
2	2	ワードの基本1	黒木 辰朗	講義
3	2	ワードの基本2	黒木 辰朗	演習
4	2	ワードの基本3	黒木 辰朗	演習
5	2	エクセルの基本1	黒木 辰朗	講義
6	2	エクセルの基本2	黒木 辰朗	演習
7	2	エクセルの基本3	黒木 辰朗	演習
8	2	パワーポイントの基本	黒木 辰朗	演習
9	2	SNSの利用について	黒木 辰朗	講義
10	2	まとめ	黒木 辰朗	講義

総括的評価

3回のレポート(30%)と筆記試験(70%)をもって評価を行う。

教科書：特に指定は無し

参考書：

その他の資料：資料を配布します

担当教員から

臨床で必要となる基本的なITスキルを実践を通して身につけましょう

実務経験のある教員による実践的授業



1年次 前期(1単位:20時間)

(授業概要)

健康・体力の維持・増進を図るため、身体運動及びスポーツの実習を行う。実習を通じて自主的・合理的に、生涯にわたる自己の心身の健康管理、及びスポーツ活動を行うことができる教養と実践能力を育成する。

(教育目標)

生涯にわたる自己の健康管理とスポーツ活動を行うことができる教養と実践能力を習得する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	オリエンテーション: 整列の練習、選択種目の決定	高橋 秀樹	演習
2	2	球技: バレーボール	高橋 秀樹	演習
3	2	球技: バレーボール	高橋 秀樹	演習
4	2	球技: バレーボール	高橋 秀樹	演習
5	2	球技: バレーボール	高橋 秀樹	演習
6	2	球技: バスケットボール	高橋 秀樹	演習
7	2	球技: バスケットボール	高橋 秀樹	演習
8	2	球技: バスケットボール	高橋 秀樹	演習
9	2	球技: バスケットボール	高橋 秀樹	演習
10	2	球技: バスケットボール	高橋 秀樹	演習

総括的評価

各種目終了時に実技評価、及び参加態度で総合的に評価する。

教科書:

参考書:

その他の資料:

担当教員から

運動・スポーツを日常生活に取り入れ、授業時間以外の時間帯にも積極的にスポーツに親しむなど、学生生活に反映できればより望ましい。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 後期(1単位:20時間)

(授業概要)

施設や回復期病棟でのレクリエーションについて理解する。

(教育目標)

- ・レクリエーションと期待する治療効果について理解する
- ・自ら楽しんでレクリエーションに参加できる
- ・レクリエーションの意味や説明することが出来る

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	レクリエーションとは何か。持っているイメージを表現する。	谷口 慶子	演習
2	2	レクリエーションを計画し進行・実践する	谷口 慶子	演習
3	2	レクリエーションを計画し進行・実践する	谷口 慶子	演習
4	2	作業療法士に求められるレクリエーションについて	谷口 慶子	講義
5	2	レクリエーションの計画書に沿って作業分析・治療効果を検討する	谷口 慶子	演習
6	2	治療効果を考えたレクリエーションを実践する	谷口 慶子	演習
7	2	治療効果を考えたレクリエーションを実践する	谷口 慶子	演習
8	2	レクリエーションを実施し自主的に参加する	谷口 慶子	演習
9	2	レクリエーションを実施し自主的に参加する	谷口 慶子	演習
10	2	レクリエーションを実施し自主的に参加する	谷口 慶子	演習

総括的評価

グループでの発表や計画書の提出をもって判断する。

教科書:レクリエーション

参考書:

その他の資料:

担当教員から

意味のあるレクリエーションが実践できるように、まずは自ら楽しむ必要があることを伝える。  
自分が楽しむことで相手も引き込まれる体験を多く持つ経験をして欲しい。疾患や集団など場面に合わせた組み立てができるようになって

実務経験のある教員による実践的授業

授業科目名：音楽

担当教員： 柏木 祐香  
田中 理砂

1年次 前期(1単位：20時間)

(授業概要)

学園の校歌を習得し、式典などで歌えること。音楽療法を考え、音楽効果が身体に作用することを考える。

(教育目標)

音楽において、〈歌う〉とはもっとも基本的かつ表現において最も重要な要素の一つである。また最も身近な音楽行為でもある。すぐれた作品を鑑賞することによって、そこに表現された人間の心をまなぶ。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	オリエンテーション 校歌を覚える	柏木 祐香	演習
2	2	歌唱活動 グループ作曲	柏木 祐香	演習
3	2	歌唱活動 ブーンワッカーを使った演奏①	柏木 祐香	演習
4	2	歌唱活動 ブーンワッカーを使った演奏②	柏木 祐香	演習
5	2	歌唱活動 ブーンワッカーを使った演奏③発表	柏木 祐香	演習
6	2	音楽療法の歴史：音楽療法はなぜできたか。音楽療法とは何か、どのような効果があるか。	田中 理砂	講義
7	2	音楽を奏でて：音でいろいろな表現をする。	田中 理砂	演習
8	2	楽器とは：各国の楽器について。	田中 理砂	演習
9	2	音楽療法の対応：どのようにして音楽療法は使われるか。	田中 理砂	演習
10	2	ボールを使って：ボールを使ったレクリエーション。	田中 理砂	演習

総括的評価

レポートにて成績判定を行う

教科書：学園歌集

参考書：

その他の資料：

担当教員から

音楽の内面をいろいろな角度からみつめることによって、「音楽」が人間に及ぼすプラスアルファといったものをみなさんと一緒に考えていきたいとおもっています。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業

授業科目名：一般英語

担当教員：恐田 貴美代

1年次 前期(1単位：30時間)

(授業概要)

教本を通して英文の知識を深め、外国社会への関心を持ちながら、英語の読解力を身につける。

(教育目標)

英文を正しく理解し、内容把握ができるようにする。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	Unit1 病院の受付場面	恐田 貴美代	講義
2	2	Unit2 検査、指示、体の部位	恐田 貴美代	講義
3	2	Unit3 入院手続き、病院内施設、献立	恐田 貴美代	講義
4	2	Unit4・5 病院の案内、道順、問診、初診	恐田 貴美代	講義
5	2	Unit6・7 問診、初診、基本の質問、検査後、いろいろな問診	恐田 貴美代	講義
6	2	Unit8・9 病室での会話、痛みの伝え方	恐田 貴美代	講義
7	2	Unit10・11 リハビリ いろいろ指示、はげましながら、様子をききながら	恐田 貴美代	講義
8	2	Unit12・13 リハビリ 可動域訓練、ベッドサイド訓練	恐田 貴美代	講義
9	2	Unit14・15 車椅子、マット上訓練	恐田 貴美代	講義
10	2	Unit16・17 立ち上がる訓練、歩行訓練	恐田 貴美代	講義
11	2	Unit18・19 呼吸・排痰、温熱	恐田 貴美代	講義
12	2	Unit20 水、利き手交換、会話テスト準備	恐田 貴美代	講義
13	2	医療器具、語彙、会話テスト準備	恐田 貴美代	講義
14	2	会話テスト	恐田 貴美代	講義
15	2	会話テスト	恐田 貴美代	講義

総括的評価

筆記による定期試験を実施する。

教科書：20Medical Dialogos8(弓プレス)

参考書：

その他の資料：

担当教員から

英語の基礎を復習し、その後教科書に入っていきます。予習・復習を欠かさないこと。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 後期(1単位:30時間)

(授業概要)

社会生活を営む上で人との関係は必要不可欠なものである。人間関係を理解する上で大切なことは、まず自分を理解することである。本講義では、自分自身を理解することに取り組み、他者とコミュニケーションを取るために必要な「今ここにおける自分自身の状況を客観視できる力」や「自分の周りに影響を与える気持ちや態度」を高めるための演習等を通して、コミュニケーションスキルを実践的に学んでいく。将来医療者となる自分自身のコミュニケーション力を向上させること、自己理解、心と心の通い合いによって生まれる温かい人間関係を医療現場で実践できる人になることが本講義の目的である。

(到達目標)

1. 自分を理解することに取り組み、自己理解を深めることができる。
2. 対人関係を円滑にするコミュニケーションについて具体的に理解できる。
3. 言語・準言語・非言語コミュニケーションについて具体的に説明できる。
4. 基本的なコミュニケーションスキル「みる」「聴く」「伝える」を理解できる。
5. 「傾聴」の基本を学び、具体的な方法について説明できる。
6. 感情に関する基本を理解し、自分の感情をコントロールする取り組みを始めることができる。
7. 自分も相手も大切にしたい伝え方「アイメッセージ」を学び具体的な方法について説明できる。
8. 自分も相手も大切にしたい自己主張「アサーティブネス」の基本を理解し、方法について説明できる。
9. 医療者として自律した自分になるための方法を理解し実践を始めることができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	「PT/OTを目指すあなたへ」 1. 授業概要説明 2. 対人援助職としてのPT/OT 3. PT/OTに必要なコミュニケーション力	山下 みどり	講義
2	2	自己理解(I) 1. 自己概念 2. 自分の性格と傾向	山下 みどり	講義
3	2	自己理解(II) 1. 他者からみた自分 2. 自己開示	山下 みどり	講義
4	2	自己理解(III) 1. 自己存在についての意識 2. 自分の態度	山下 みどり	講義
5	2	人間関係と対人コミュニケーション(I) 1. 人間の心を理解する (1)心の構造 (2)心の機能:人間理解のための方法	山下 みどり	講義
6	2	人間関係と対人コミュニケーション(II) 1. 対人コミュニケーション分析 (1)対話から理解する方法 (2)人間関係を円滑にする対話	山下 みどり	講義
7	2	人間関係と対人コミュニケーション(III) 1. 存在への働きかけ (1)存在認知の種類 (2)対人関係を良好にする働きかけ	山下 みどり	講義
8	2	コミュニケーション力を育もう(I) 1. 言語・準言語コミュニケーション 2. 非言語コミュニケーション	山下 みどり	演習
9	2	コミュニケーション力を育もう(II) 1. 「聞く」と「聴く」	山下 みどり	演習
10	2	コミュニケーション力を育もう(III) 1. 傾聴トレーニング	山下 みどり	演習
11	2	コミュニケーション力を育もう(IV) 1. 伝える 2. 報告する	山下 みどり	演習
12	2	自律した自分になろう 1. 医療者に必要な感情管理 2. 自分の感情をコントロールする方法	山下 みどり	演習
13	2	コミュニケーションスキル(I) 自分も相手も大切にしたい伝え方 1. アイメッセージ	山下 みどり	演習
14	2	コミュニケーションスキル(II) 自分と相手を大切にしたい自己主張 1. アサーティブネス	山下 みどり	演習
15	2	自律した自分になろう 1. 自己管理 2. メンタルヘルス対策	山下 みどり	演習

総括的評価

受講態度・意欲等(30%)、課題提出と記述内容(30%)、最終試験(40%)

教科書:「PT・OTのためのこれぞ安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版」山口美和著 医学書院 2016年

参考書:

その他の資料:必要に応じて資料やワークシートなどを配布します。

担当教員から

- ①本講義では演習を多く取り入れます。積極的な取り組みを期待します。
- ②人とかかわりを通して、自分をそして他者を理解し、新たな自分を発見してください。
- ③本講義では心の問題について触れることがあります。ワークへの取り組みが難しい状況にある人は、無理せず遠慮なく申し出てください(申し出により不利になるようなことはありません)。

1年次 前期（1単位：30時間）

（授業概要）

対人援助における人間関係の学びの重要性を知り、また自己の関係性の作り方に気づくことで、対人援助をより円滑に行う基礎を作る。

（教育目標）

①他者を理解するためには自分を理解する必要があることを理解する。②親子関係の特異性を学ぶ③作業療法士としてのコミュニケーションの取り方を理解する。④リフレーミングを通して自分の物の見方、考え方を見直す。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	『ものをみる』という4コママンガを通して、対象者を理解する方法を考察する。	谷口 慶子	講義
2	2	人としての宿命を考える。また人間関係に見られる一般原則を自覚する。	谷口 慶子	講義
3	2	『我と汝の関係』（マルティンブーバー）の考えを元に自己の関係性の作り方に気づく	谷口 慶子	講義
4	2	『我と汝の関係性において生まれる“やさしさ”』を考える。（踏み込まないのがやさしさなのか）	谷口 慶子	講義
5	2	『親子関係の特異性（宿命）』を自覚する。	谷口 慶子	講義
6	2	親子関係と子供の発達について（情緒的適温とは／自己肯定感はいかにして育まれるのか）	谷口 慶子	講義
7	2	親子関係と子供の発達について（溺愛型と過干渉型の親子関係について）	谷口 慶子	講義
8	2	親子関係と子供の発達について（過干渉型の親子関係について②）	谷口 慶子	講義
9	2	親子関係と子供の発達について（“褒め言葉は子供を支配する”とはどのような意味かを理解する	谷口 慶子	講義
10	2	親子関係と子供の発達について（怠慢型・ネグレクトとは？／残忍型の親子関係について）	谷口 慶子	講義
11	2	コミュニケーションをとるとはどのような状態をいうのか。（目的・手段について）／“分かる”とは？	谷口 慶子	講義
12	2	作業療法士としての成功するコミュニケーションについて（①見ること②聞くこと）	谷口 慶子	講義
13	2	作業療法士としての成功するコミュニケーションについて（③治療者が冷静であること④焦点化）	谷口 慶子	講義
14	2	リフレーミングについて（視点を変える）	谷口 慶子	講義
15	2	リフレーミングについて（実際にリフレーミングする）	谷口 慶子	講義

総括的評価

上記の内容を踏まえた筆記試験による評価

教科書：PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド第2版（山田美和著／医学書院）

参考書：生涯人間発達論（服部祥子著／医学書院）・PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド 第2版（山田美和著／医学書院）

その他の資料：

担当教員から

人間関係は大変身近なのに悩むとき以外はほとんど考えることがない。しかし常に人と人との関係性を意識することで、対人援助の専門家としての力量を高めていて欲しい。また、実習準備に備えての心得についても早い段階から取り入れたがなかなか汎化は難しいようである。今後の接遇マナーを学ぶ機会に伴って、実習に行くときに身に付けてもらいたい授業である。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 前期・後期( 2単位：60時間)

(授業概要)

本科目の授業では、身体の働きと構造を総合的・体系的に学習する。1年次の理学療法評価学、さらに、2年次の専門分野を学習するための基礎となる知識として必要な身体器官の正常構造や機能と基本的学術用語について理解を深める。

(到達目標)

1. 細胞・組織・器官・器官系の階層構造について説明できる。
2. 骨格全体の構成や特徴、個々の骨の名称や数を正確に説明できる。
3. 脳の構造と機能を理解し、高次脳機能との関連について説明できる。
4. 中枢神経系および末梢神経系を構成している各部の名称や機能を説明できる。
5. 上行性および下行性伝導路の種類と各伝導路の主要な部位が分かる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	解剖学とは	田川	講義
2	2	細胞と組織①	田川	講義
3	2	細胞と組織②	田川	講義
4	2	ヒトの発生	田川	講義
5	2	骨格系(骨組織と骨格の構造)	田川	講義
6	2	骨格系:付属肢骨格(上肢①)	田川	講義
7	2	骨格系:付属肢骨格(上肢②)	田川	講義
8	2	骨格系:付属肢骨格(下肢①)	田川	講義
9	2	骨格系:付属肢骨格(下肢②)	田川	講義
10	2	骨格系:軸骨格(脊椎①)	田川	講義
11	2	骨格系:軸骨格(脊椎②)	田川	講義
12	2	骨格系:軸骨格(頭蓋骨①)	田川	講義
13	2	骨格系:軸骨格(頭蓋骨②)	田川	講義
14	2	骨格系:骨格筋の構造	田川	講義
15	2	骨格系:軸筋群(体幹)	田川	講義
16	2	骨格系:軸筋群(顔面)	田川	講義
17	2	神経系:神経組織	田川	講義
18	2	神経系:脊髄	田川	講義
19	2	神経系:脊髄神経	田川	講義
20	2	神経系:脳①	田川	講義
21	2	神経系:脳②	田川	講義
22	2	神経系:脳③	田川	講義
23	2	神経系:脳④	田川	講義
24	2	神経系:脳神経①	田川	講義
25	2	神経系:脳神経②	田川	講義
26	2	神経系:脳神経③	田川	講義
27	2	神経系:上行性伝導路	田川	講義
28	2	神経系:下行性伝導路	田川	講義
29	2	神経系:高次機能①	田川	講義
30	2	神経系:高次機能②	田川	講義

総括的評価

終講後に定期試験(共に筆記試験)を実施し、合格者には単位を認定する。  
定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

テキスト及び参考文献

教科書:「カラー人体解剖学」井上 貴央 (西村書店) その他、配布資料あり  
「スクエア最新図説生物」吉田 勝利(第一学習社)  
「基礎運動学」中村 隆一 (医歯薬出版株式会社)

参考書:「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」編集 野村 巖 (医学書院)

担当教員から

教科書や参考書による視覚情報では3次元の知覚ではないので人体の内部のような立体構造物を本の上で理解する場合には困難さが伴います。そこを補う意味で、解剖標本、スライドなどを用い人体の立体構造とその働きを学んでください。人体の機能分野の対象は広く、しかし講義では限られた項目しか取り扱えないため、皆さんには十分な復習をすること、興味をもった分野は自分でさらに学習していくことを期待します。

1 年次 後期 ( 3 単位: 60 時間)

(授業概要)

PT・OTなどの医療職に就くために必要な医学の基礎となる正常な人体の構造について、細胞レベル・組織・器官さらには系統レベルで学び、生命現象を理解するための考え方、基本的解剖用語と身体の仕組みについて理解を深める。

(行動目標)

(時任)  
 1.解剖学において学ぶ言葉(用語)を述べ、その部位の構造を説明することができる。  
 2.解剖学の用語暗記にとどまらず、生理学との有機的つながりを見つけ、形態(構造)と機能の関連付けを説明できる  
 3.人体の構造と機能をマクロ・ミクロの両面から系統的に学び、説明することができる。  
 4.各器官およびその系統における形態について肉眼解剖学、組織学、発生学の観点から説明することが出来る。  
 (田川)  
 5.自律神経系の基本構成を説明できる。  
 6.感覚器系では、皮膚感覚・視覚器・平衡聴覚器の構造とその感覚機能について関連づけて説明できる。  
 7.消化器系の名称や構造を説明できる。  
 8.泌尿器系の名称や構造を説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	第11章:付属肢筋群:1.上肢帯および上肢の筋:教科書①p225~238 教科書②p213~245	時任 真幸	講義
2	2	第11章:付属肢筋群:2.下肢帯および下肢の筋:教科書①p239~252 教科書②p246~271	時任 真幸	講義
3	2	第12章:体表局所解剖学:2.下肢帯および下肢の筋:教科書①p253~260 教科書②p217,248,276,294	時任 真幸	講義
4	2	第19章:内分泌系:概観、視床下部、下垂体:教科書①p389~394 教科書③p523~524,541~550、教科書④・⑤も関連ページを参照	時任 真幸	講義
5	2	第19章:内分泌系:甲状腺、副甲状腺、胸腺、副腎:教科書①p395~399 教科書③p550~565、教科書④・⑤も関連ページを参照	時任 真幸	講義
6	2	第19章:内分泌系:腎臓、心臓、膵臓、性腺、松果体など:教科書①p399~404 教科書③p565~575、教科書④・⑤も関連ページを参照	時任 真幸	講義
7	2	第20章:血液:教科書①p405~415 教科書②p177・178、教科書③第12章、教科書④・⑤も関連ページを参照	時任 真幸	講義
8	2	第23章:リンパ系:概観、構造、リンパ球、リンパ組織:教科書①p465~472	時任 真幸	講義
9	2	第23章:リンパ系:リンパ器官:教科書①p473~480	時任 真幸	講義
10	2	第21章:心臓血管系:心臓、概観・心膜・壁構造、位置外形、内部構造:教科書①p417~427 教科書②p179~180、教科書③351~356	時任 真幸	講義
11	2	第21章:心臓血管系:心臓、心臓周期:教科書①p417~427 教科書②p180~188、教科書③356~380	時任 真幸	講義
12	2	第22章:心臓血管系:血管と循環、組織学的構成、肺循環、体循環(動脈):教科書①p433~451	時任 真幸	講義
13	2	第22章:心臓血管系:血管と循環、体循環(静脈)、胎児循環、運動と心臓血管疾患、加齢と心臓血管系:教科書①p451~463	時任 真幸	講義
14	2	第23章:呼吸器系:概観・上部呼吸器系・下部呼吸器系・気管・気管支:教科書①p481~489 教科書②p167~169、教科書③327~328	時任 真幸	講義
15	2	第23章:呼吸器系:肺・胸膜腔と胸膜:教科書①p489~501 教科書②p169~177、教科書③328~348	時任 真幸	講義
16	2	神経系:自律神経系①	田川 知恵子	講義
17	2	神経系:自律神経系②	田川 知恵子	講義
18	2	神経系:感覚①	田川 知恵子	講義
19	2	神経系:感覚②	田川 知恵子	講義
20	2	神経系:感覚③	田川 知恵子	講義
21	2	消化器系:口腔・咽頭・食道・胃	田川 知恵子	講義
22	2	消化器系:小腸・大腸・直腸と肛門	田川 知恵子	講義
23	2	消化器系:肝臓・胆嚢と胆道	田川 知恵子	講義
24	2	消化器系:膵臓・腹膜	田川 知恵子	講義
25	2	泌尿器系:腎臓①	田川 知恵子	講義
26	2	泌尿器系:腎臓②	田川 知恵子	講義
27	2	泌尿器系:尿管・膀胱・尿道	田川 知恵子	講義
28	2	生殖器系	田川 知恵子	講義
29	2	まとめ①	田川 知恵子	講義
30	2	まとめ②	田川 知恵子	講義

総括的評価

(時任) 終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。試験問題は教科書①各章の巻末「赤チェック」を基本として出題する。②解剖図から部位を答える問題も出題するので定期試験までに設問をまとめ、理解しておくようにしてください。尚、時任出題分は50%の配点となります。  
 (田川) 終講後に定期試験(共に筆記試験)を実施し、合格者には単位を認定する。  
 定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

テキスト及び参考文献

教科書: ①カラー人体解剖学~構造と機能:ミクロからマクロまで~、F. H. マティエニラ著、井上貴央監訳、西村書店  
 ②基礎運動学第6版補訂、中村隆一ら著、医歯薬出版株式会社  
 ③人体機能生理学改定第5版、杉晴夫編集、南江堂  
 ④系統看護学講座基礎分野生物学、高畑雅一ら著、医学書院  
 ⑤スクエア最新図説生物neo七訂版、吉里勝利監修、第一学習者

参考書:(時任)「WEB玉塾」で検索してください。「生物」と「解剖生理」の項目にシンプルでわかりやすい動画が多数あります。予習で必ず視聴してください。その他インターネット等で解剖学を検索して良いwebページを探してください。

その他の資料:適宜資料を印刷、配布します。

担当教員から

解剖学を暗記で乗り切るのは困難を極めます。生理学・運動学と関連付けて「ヒト」を理解するためのツールとして使いこなせるように頑張りましょう。



1年次 前期( 3単位: 60時間)

(授業概要)

PT、OTなどの医療職に就くために必要な医学の基礎となる正常な人体機能について、細胞レベル・組織・器官さらには系統レベルで学び、生命現象を理解するための考え方、基本的学術用語と身体の仕組み働きについて理解を深める。私たちの身体の中には胃や腸、心臓などの内臓系、骨や筋、神経などの筋骨格系などさまざまな器官・組織があるが、これらは互いに独立して働いているわけではなく、筋運動をする心拍が速くなることからわかるように、相互に密接に関連しながら機能している。このような機能の調節を含めて、トータルとしての人体の構造と機能、特に機能を中心として理解することを目標とする。

(到達目標)

- 1.生理学において学ぶ言葉を通じて、その意味を説明することができる。
- 2.生体恒常性とそれに関わる身体反応について説明することができる。
- 3.人体の構造と機能をマクロ・ミクロの両面から系統的に学び、説明することができる。
- 4.各器官およびその系統における機能について調節系も含め、説明することができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	第1章:生理学序論(ホメオスタシス、負のフィードバック、生理学を学ぶ意義について) 生物学p8、182~184、図説p114-124、128~130、基礎運動学p47、カラー人体解剖学p1~5	時任 真幸	講義
2	2	第2章:細胞の構造と機能(細胞構造要素:分子、細胞の微細構造と機能) 生物学p12~232-32、図説p18~21-32、基礎運動学p49-49、51-198~202、カラー人体解剖学p21~38	時任 真幸	講義
3	2	第3章:細胞膜における物質移動(拡散・能動輸送・浸透) 生物学p27~33、図説p28~31、基礎運動学p51、カラー人体解剖学p24~26	時任 真幸	講義
4	2	第3章:細胞膜における受容体による信号の伝達(イオンチャンネル型・G蛋白質共役型・酪氨酸型、Na <sup>+</sup> ポンプ) 生物学p28~32、図説p32-33、カラー人体解剖学p21~27	時任 真幸	講義
5	2	第4章:細胞膜の興奮(全か無かの法則、閾値、静止電位、活動電位、オーバーシュート、不応期) 生物学p32-206~208、221-222、図説p209~211、基礎運動学p51~53	時任 真幸	講義
6	2	第5章:筋肉の収縮(骨格筋の構造、筋収縮の滑り機構、骨格筋収縮の分子機構) 生物学p234~237、図説p114、124、128~130、基礎運動学p72~82、カラー人体解剖学p189~196	時任 真幸	講義
7	2	第5章:筋肉の収縮(骨格筋の興奮収縮連関、骨格筋の力学的特性) 生物学p237-238、図説p216-217-219、基礎運動学p77-78-82~88、カラー人体解剖学p197	時任 真幸	講義
8	2	第5章:筋肉の収縮(骨格筋と心筋、平滑筋との比較) 生物学p70、234-235、図説p217-218、基礎運動学p47、カラー人体解剖学p59~61	時任 真幸	講義
9	2	第17章:栄養と代謝(栄養の種類、代謝とは、異化作用、同化作用など) 生物学p24~27、図説p18-19-44-60-61、基礎運動学p49-50-196~202	時任 真幸	講義
10	2	第17章:栄養と代謝(糖質代謝、脂質代謝、蛋白質代謝) 生物学p50~57、図説p62~66、基礎運動学p50	時任 真幸	講義
11	2	第17章:栄養と代謝(基礎代謝、エネルギー代謝) 図説p66、基礎運動学p202~209	時任 真幸	講義
12	2	第17章:栄養と代謝(運動時のエネルギー供給) 基礎運動学p209~212-327~332	時任 真幸	講義
13	2	第11章:自律機能と本能行動(自律神経の構成と支配様式、自律神経による臓器支配、自律神経反射) 生物学p191~193、図説p124-125、基礎運動学p91~93-183-184、カラー人体解剖学p348~358	時任 真幸	講義
14	2	第11章:自律機能と本能行動(自律神経の伝達物質、カテコールアミン) 生物学p192-193-222~224、図説p124-125、基礎運動学p182~184、カラー人体解剖学p353~357	時任 真幸	講義
15	2	第11章:自律機能と本能行動(視床、視床下部の機能) 生物学p194~196、232~234、図説p124-125-128-130-214、基礎運動学p104~107、カラー人体解剖学p298-300-313~317-350	時任 真幸	講義
16	2	神経の興奮伝達(神経細胞の構造、活動電位の伝導)	立石 洋	講義
17	2	神経の興奮伝達(神経線維の種類、神経線維の変性と再生)	立石 洋	講義
18	2	興奮の伝達と抑制(シナプス伝達、中枢のシナプス伝達、抑制機構)	立石 洋	講義
19	2	興奮の伝達と抑制(シナプス伝達、神経伝達物質、加重、可塑性)	立石 洋	講義
20	2	運動と姿勢の制御(運動単位、サイズ原理)	立石 洋	講義
21	2	運動と姿勢の制御(中枢神経の構造と脊髄反射)	立石 洋	講義
22	2	運動と姿勢の制御(脊髄反射、固縮と痙攣、脊髄損傷)	立石 洋	講義
23	2	運動と姿勢の制御(脳幹、小脳、大脳基底核、視床の働き)	立石 洋	講義
24	2	脳の統合機能(大脳皮質の構造と働き、伝導路)	立石 洋	講義
25	2	脳の統合機能(大脳皮質の構造と働き、伝導路)	立石 洋	講義
26	2	脳の統合機能(睡眠、学習と記憶、言語中枢)	立石 洋	講義
27	2	感覚と知覚(感覚総論、体性感覚)	立石 洋	講義
28	2	感覚と知覚(体性感覚、内臓感覚)	立石 洋	講義
29	2	感覚と知覚(特殊感覚)	立石 洋	講義
30	2	感覚と知覚(特殊感覚)	立石 洋	講義

総括的評価

最終後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。試験問題は教科書①各章の巻末「設問」より出題する。定期試験までに設問をまよめ、理解しておくようにしてください。尚、時任出題分は50%の配点となります。

教科書:①人体機能生理学改定第5版、杉崎夫編集、南江堂  
②系統看護学講座基礎分野生物学、高畑雅一ら著、医学書院  
③スクエア最新図説生物neo7訂版、吉里勝利監修、第一学習者  
④基礎運動学第8版補訂、中村隆一ら著、医歯薬出版株式会社  
⑤カラー人体解剖学~構造と機能:ミクロからマクロまで~、F. H. マティニーニら著、井上貞央監訳、西村書店

参考書:参考サイトです。  
「一歩一歩学ぶ生命科学」で検索してください。生命科学教育シェアリンググループが作成している大変分かりやすいサイトです。  
必ず学習してください。  
「WEB玉塾」で検索してください。「生物」&「解剖生理」の項目にシンプルでわかりやすい動画が多数あります。予習で必ず視聴してください。

その他の資料:適宜資料を配布します。

担当教員から

生理学は細胞などのミクロの視点からその細胞が約60兆個集合して人体となるマクロまで学習します。さらに、リハビリテーションの分野は人体が障害を持って生命活動を行っていることに対し、援助していく仕事です。生理学単体で学習するのではなく、生物学や解剖学、運動学など各学問の領域を行き来しながら、また、器官と細胞との関係を考えながら、担当患者の持つ障害に思いをよせて基礎医学である生理学を解剖学・運動学と結びつけながらストーリーを展開し、学んでいきましょう。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 後期( 3単位: 60時間)

(授業概要)

(時任)PT・OTなどの医療職に就くために必要な医学の基礎となる正常な人体機能について、細胞レベル・組織・器官さらには系統レベルで学び、生命現象を理解するための考え方、基本的学術用語と身体の仕組み働きについて理解を深める。私たちの身体の中には胃や腸、心臓などの内臓系、骨や筋、神経などの筋骨格系などさまざまな器官・組織があるが、これらは互いに独立して働いているわけではなく、筋運動をするとき拍が速くなることからわかるように、相互に密接に関連しながら機能している。このような機能の調節も含めて、トータルとしての人体の構造と機能、特に機能を中心として理解することを目標とする。  
(立石)ヒトの体の機能を理解するために実験を通して講義と関連づける。筋収縮の特性を理解する。中枢神経、末梢神経系の活動を解説し、身体の様々な感覚について理解を図る。ヒトから心電図を記録し、心臓機能の理解を深める。

(到達目標)

(時任)  
1.生理学において学ぶ言葉を述べ、その意味を説明することができる。  
2.生体恒常性とそれに関わる身体反応について説明することができる。  
3.人体の構造と機能をマクロ・ミクロの両面から系統的に学び、説明することができる。  
4.各器官およびその系統における機能について調節系も含め、説明することができる。  
(立石)  
5.正常なヒトの体の機能を学習するために必要な中枢神経系の働き、感覚、運動、循環の機構について実習を通して理解を深める。  
・生体現象を観察することの重要性を述べられる。  
・計測機器の取扱いができる。  
・循環と血圧の概念を説明する。  
・肺気量分面を説明する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	第19章:体温とその調節(体温の恒常性、熱産生と熱放射)	時任 真幸	講義
2	2	第19章:体温とその調節(体温の調節、体温の異常)	時任 真幸	講義
3	2	第14章:心臓(心臓の構造と機能)	時任 真幸	講義
4	2	第14章:心臓(心臓の静止電位と活動電位)	時任 真幸	講義
5	2	第14章:心臓(心電図)1 誘導心電図やモニター心電図、心電図波形の作図	時任 真幸	講義
6	2	第14章:心臓(異常心電図)	時任 真幸	講義
7	2	第14章:心臓(心臓のポンプ機能①心筋の興奮収縮連関②心筋の機械的性質③心周期)	時任 真幸	講義
8	2	第14章:心臓(心臓のポンプ機能④心拍出量⑤心臓の仕事)	時任 真幸	講義
9	2	第15章:循環(循環系の構造と機能、血行力学)	時任 真幸	講義
10	2	第15章:循環(血流、血圧)	時任 真幸	講義
11	2	第15章:循環(循環の調節、特殊循環とその調節)	時任 真幸	講義
12	2	第18章:尿の生成と排泄(排泄系、腎臓の機能的構造)	時任 真幸	講義
13	2	第18章:尿の生成と排泄(尿生成の機序と調節)	時任 真幸	講義
14	2	第18章:尿の生成と排泄(腎臓から分泌されるホルモン、尿管・膀胱および尿道の働き)	時任 真幸	講義
15	2	第18章:尿の生成と排泄(尿の成分と性状)	時任 真幸	講義
16	2	血液(赤血球、血漿タンパク)	立石 洋	講義
17	2	血液(白血球、免疫)	立石 洋	講義
18	2	血液(血小板、血液凝固、血液型)	立石 洋	講義
19	2	呼吸(呼吸器の構造、気道の機能、呼吸運動、呼吸運動の調節、肺模型の作成)	立石 洋	講義
20	2	呼吸(肺容量、死腔、肺換気量、スパイログラム、フローボリューム曲線)、呼吸機能検査	立石 洋	演習
21	2	呼吸(ガス交換、拡散障害、血液によるガスの運搬)	立石 洋	講義
22	2	酸塩基平衡(酸塩基平衡の異常とその原因、血液データの見方)、酸塩基平衡の計算	立石 洋	演習
23	2	消化吸収(口腔、食道、胃の構造・運動と機能、唾液・胃液の分泌)	立石 洋	講義
24	2	消化吸収(小腸の構造と運動・機能、腸液・膵液・胆汁の分泌)	立石 洋	講義
25	2	消化吸収(小腸の機能:肝臓の構造・機能、門脈の解剖と機能、栄養の吸収機序、大腸の構造と運動、機能、腸管の神経支配と排便)	立石 洋	講義
26	2	内分泌(ホルモンの構造と作用機序、分泌と調節、視床下部の内分泌、下垂体の内分泌、下垂体ホルモンの生理作用、下垂体機能異常)	立石 洋	講義
27	2	内分泌(甲状腺、サイロキシンの生理作用、カルシトニン、甲状腺機能亢進・低下、上皮小体)	立石 洋	講義
28	2	内分泌(副腎の内分泌、副腎の内分泌、副腎皮質機能異常、性腺ホルモン)	立石 洋	講義
29	2	生殖	立石 洋	講義
30	2	生殖	立石 洋	講義

総合的評価

(時任) 終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。試験問題は教科書①各章の巻末「設問」より出題する。定期試験までに設問をまとめ、理解しておくようにしてください。尚、時任出題分は50%の配点となります。  
(立石) 終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。  
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:①人体機能生理学改定第5版、杉崎夫編集、南江堂  
②系統看護学講座基礎分野生物学、高畑雅一ら著、医学書院  
③スクエア最新図説生物neo 7訂版、吉里勝利監修、第一学習者  
④基礎運動学第8版補訂、中村隆一ら著、医歯薬出版株式会社  
⑤カラー人体解剖学～構造と機能:ミクロからマクロまで～、F. H. マティーンら著、井上貴央監訳、西村書店

参考書:(時任)参考サイトです。  
「一步一步学ぶ生命科学」で検索してください。生命科学教育シェアリンググループが作成している大変分かりやすいサイトです。必ず学習してください。  
「WEB玉塾」で検索してください。「生物」が解剖生理の項目にシンプルでわかりやすい動画が多数あります。予習で必ず視聴してください。

その他の資料:教科書の補足として、適宜、スライド配布資料、他ハンドアウトを配布することがあります。

担当教員から

(時任)生理学は細胞などのミクロの視点からその細胞が約60兆個集合して人体となるマクロまで学習します。さらに、リハビリテーションの分野は人体が障害を持って生命活動を行っていることに対し、援助していく仕事です。生理学単体で学習するのではなく、生物学や解剖学、運動学など各学問の領域を行き来しながら、また、器官と細胞との関係を考えながら、担当患者の持つ障害に思いをはせて基礎医学である生理学を解剖学・運動学と結びつけながらストーリーを展開し、学んでいきましょう。  
(立石)章ごとに前回の講義内容について簡単な小テストを行うので、復習をしていてください。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 前期・後期(2単位:40時間)

(授業概要)

ヒトの身体運動の仕組みに関する学問に触れ筋骨格系の構造・身体に加わる力とのかかわりを理解する。

(教育目標)

- ・正常な骨格や筋を知り身体構造を理解する
- ・身体構造を覚え異常運動をイメージできる

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	身体運動の面と軸	宇都 未佑	講義
2	2	運動器の構造と機能	宇都 未佑	講義
3	2	運動器の構造と機能(骨の構成成分)	宇都 未佑	講義
4	2	運動器の構造と機能(骨の発生と成長)	宇都 未佑	講義
5	2	関節の構造と機能	宇都 未佑	講義
6	2	関節の構造と機能(関節軟骨)	宇都 未佑	講義
7	2	関節運動の表現	宇都 未佑	講義
8	2	骨格筋(靭帯や腱)	宇都 未佑	講義
9	2	骨格筋(筋繊維の種類・運動単位)	宇都 未佑	講義
10	2	筋収縮	宇都 未佑	講義
11	2	上肢の運動学	宇都 未佑	講義
12	2	関節とてこ	宇都 未佑	講義
13	2	肩関節の運動	宇都 未佑	講義
14	2	ひじ関節の運動	宇都 未佑	講義
15	2	ひじ関節の運動	宇都 未佑	講義
16	2	手関節の運動	宇都 未佑	講義
17	2	手関節の運動	宇都 未佑	講義
18	2	手指の構造	宇都 未佑	講義
19	2	総まとめ	宇都 未佑	講義
20	2	総まとめ	宇都 未佑	講義

総括的評価

筆記試験にて6割合格とする

教科書:基礎運動学 第6版

参考書:

その他の資料:

担当教員から

正常な身体構造のイメージが難しく3Dの映像を使ったりイメージを図にするなどして行った。わかったつもり、理解をふかめるまでたどりつきにくくなど様子がみられた。よりイメージできるような時間や資料を探す必要がある。

実務経験のある教員による実践的授業

2年次 前期・後期(2単位: 40時間)

(授業概要)

1年時の運動学で修得した内容の復習を行いその知識をもとに、体表から視診・触診を通して、正常な関節構成体の構造と機能を確認する。  
また、基本動作の特徴やその仕組みを学び、各疾患ごとの動作の違いを理解する。

(到達目標)

上肢・下肢・頸部・体幹における各関節の構造と運動を理解する。  
上肢・下肢・頸部・体幹における、筋・靭帯の走行を理解し、各筋・骨・靭帯の触診ができる。  
各基本動作の基礎・特徴について理解する。  
各疾患の動作の特徴について理解することが出来る。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	下肢帯および下肢の関節運動(下肢帯・下肢の各関節の運動の理解)	春成 拓実	講義
2	2	下肢帯および下肢の機能解剖(下肢帯・下肢を構成する組織を体表から触診する)	春成 拓実	演習
3	2	上肢帯および上肢の関節運動(下肢帯・下肢の各関節の運動の理解)	春成 拓実	講義
4	2	上肢帯および上肢の機能解剖(下肢帯・下肢を構成する組織を体表から触診する)	春成 拓実	演習
5	2	脊柱・体幹の関節運動(頭頸部・体幹の運動の理解)	春成 拓実	講義
6	2	頭頸部・体幹の関節運動(頭頸部・体幹を構成する組織を体表から触診する)	春成 拓実	演習
7	2	静止姿勢のアライメントの理解(支持基底面と身体重心の関係からみた理解)	春成 拓実	講義
8	2	正常動作の基礎(起き上がり動作、寝返り動作、床からの立ち上がり)	春成 拓実	演習
9	2	正常動作の基礎(椅子からの立ち上がり動作、歩行動作)	春成 拓実	演習
10	2	高齢期における心身特徴(高齢者の運動機能)	春成 拓実	講義
11	2	高齢者の姿勢動作(立位姿勢・起き上がり動作・椅子からの立ち上がり動作・歩行動作)	春成 拓実	演習
12	2	脳血管障害後の片麻痺の姿勢・動作の特徴(片麻痺にみられる姿勢異常・バランスの評価)	春成 拓実	講義
13	2	片麻痺患者の動作(寝返り・起き上がり・立ち上がり・移乗・歩行動作)	春成 拓実	演習
14	2	対麻痺・四肢麻痺の概略(頸髄損傷・脊髄損傷の概説)	春成 拓実	講義
15	2	対麻痺・四肢麻痺の姿勢・動作の特徴(背臥位・寝返り・起き上がり・長座位・移乗・移動動作)	春成 拓実	演習
16	2	パーキンソン病(概説・症状)	春成 拓実	講義
17	2	パーキンソンニズムの姿勢・動作(寝返り・起き上がり・端坐位・立ち上がり・立位・歩行動作)	春成 拓実	演習
18	2	変形性股関節症・膝関節症の病態と障害像	春成 拓実	講義
19	2	変形性股関節症・膝関節症の姿勢・動作の特徴(寝返り・起き上がり・立ち上がり・歩行)	春成 拓実	演習
20	2	まとめ	春成 拓実	講義

総括的評価

定期試験にて判定する。  
終講試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書: レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習 中山書店 総編集: 石川 朗、種村留美 責任編集: 小島 悟、小林麻衣  
レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト臨床運動学 中山書店 総編集: 石川 朗、種村留美 責任編集: 小島 悟、小林麻衣

参考書: レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学 中山書店 総編集: 石川 朗、種村留美 責任編集: 小島 悟  
筋骨格系のキネシオロジー(第2版) 医歯薬出版株式会社 原著者: Donald A. Neumann 監訳者: 嶋田智明、有馬慶美  
PT・OTビジュアルテキスト姿勢・動作・歩行分析 羊土社 編集 畠中泰彦

その他の資料: 必要に応じて資料を適宜配布します。

担当教員から

運動学で学んだ知識をもとに触診や身体運動の観察など行うので、身体構造や身体運動の特徴をを理解できるよう1年時の運動学の復習を行い授業に臨み理解を深められるようにして下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

授業科目名: 臨床心理学

担当教員: 長井 龍

1年次 後期(1単位:30時間)

(授業概要)

エゴグラムを知り、自己理解を深めるとともに、対人関係の基本を身につける。

(教育目標)

①対人関係の姿を交流分析の理論を元に理解する。②交流分析の理論を元に自己理解を深め、自己の成長に役立てる。  
(治療的自我の活用を心がける。)

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	自己のエゴグラムを作成する／交流分析を学ぶ目的を考える／治療的自我について	長井 龍	講義
2	2	交流分析の基本的な考え方(自己の感情・考え・行動の責任について)	長井 龍	講義
3	2	自我状態について(P/A/C)①	長井 龍	講義
4	2	自我状態について(P/A/C)②	長井 龍	講義
5	2	いろいろなエゴグラム(仕事中毒タイプ／肥満症)	長井 龍	講義
6	2	いろいろなエゴグラム(うつ病タイプ／非行少年)	長井 龍	講義
7	2	エゴグラムを用いた自己変容について	長井 龍	講義
8	2	ストロークの種類(陽性の無条件・条件付き／陰性の無条件・条件付き)	長井 龍	講義
9	2	やり取りの分析(相補的やり取り・交差的やり取り)	長井 龍	講義
10	2	やり取りの分析(隠されたやり取り／セラピストとしてのやり取りの仕方について)	長井 龍	講義
11	2	ストローク経済の法則について①	長井 龍	講義
12	2	ストローク経済の法則について②	長井 龍	講義
13	2	①ゲームの公式②ゲームの目的	長井 龍	講義
14	2	①脚本とは②脚本の成り立ち(禁止令・ドライバー)	長井 龍	講義
15	2	まとめ／交流分析の活用の仕方	長井 龍	講義

総括的評価

筆記試験にて行います

教科書: 交流分析入門(チーム医療)

参考書:

その他の資料:

担当教員から

リハビリテーションは、対象者が主体的に取り組むことで、その効果が最大になります。その主体性を引き出すために、セラピストとして、自己活用出来るようになることを願っています。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 後期(1単位:30時間)

(授業概要)

病理学は病気を科学的に理解するための基礎的な考え方を学ぶ学問領域である。「解剖学」や「生理学」で学習した人体の正常な構造・機能に関する知識を基礎として、疾病(病気)の原因とその発生進展過程について系統的に理解し、臨床の現場で遭遇する可能性のある疾病(病気)を理解するための基盤を形成することを目的とする。病理学総論に重点を置き、代表的な疾病に言及しながら講義形式で教授する。

(教育目標)

- ① 先天異常(遺伝性疾患・奇形・染色体異常)および老化について説明できる。
- ② 細胞傷害と代謝障害・進行性病変に含まれる諸概念について説明できる。
- ③ 循環障害の種類と、それぞれの発生機構について説明できる。
- ④ 炎症の定義と分類について説明し、炎症性疾患・免疫異常について説明できる。
- ⑤ 腫瘍を定義し、良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴と相違点について説明できる。
- ⑥ 腫瘍の発生・進展メカニズム、悪性腫瘍の疫学的事項について説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	病理学の概要・病因	吉田 愛知	講義
2	2	退行性病変(変性・萎縮・細胞死)	吉田 愛知	講義
3	2	物質代謝障害と蓄積・先天性代謝障害	吉田 愛知	講義
4	2	進行性病変(肥大と過形成・化生・再生)	吉田 愛知	講義
5	2	循環障害Ⅰ(動脈硬化と疾患)	吉田 愛知	講義
6	2	循環障害Ⅱ(うっ血、充血、出血、血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫、ショックなど)	吉田 愛知	講義
7	2	炎症と免疫・免疫異常(自己免疫疾患、アレルギー、免疫不全)	吉田 愛知	講義
8	2	炎症反応と疾患・感染症	吉田 愛知	講義
9	2	腫瘍Ⅰ(定義、良性と悪性の相違点)	吉田 愛知	講義
10	2	腫瘍Ⅱ(腫瘍の発生と進展・浸潤と転移)	吉田 愛知	講義
11	2	腫瘍Ⅲ(疫学・臨床病期・治療・予防)	吉田 愛知	講義
12	2	遺伝性と病気(遺伝のメカニズムと遺伝性疾患)	吉田 愛知	講義
13	2	先天異常(奇形・染色体異常)	吉田 愛知	講義
14	2	老化と疾病・病理検査	吉田 愛知	講義
15	2	日本人の病気・病理学まとめ	吉田 愛知	講義

総括的評価

終講試験で評価する。

教科書: 系統看護学講座 専門基礎分野4 病理学、医学書院

参考書: ロビンス基礎病理学(第8版)、豊國伸哉・高橋正英監訳、丸善出版  
ロス&ウィルソン 健康と病気のしくみがわかる解剖生理学(改訂版) A ウォー他著、西村書店

その他の資料: 必要に応じてプリントを配布する。

担当教員から

授業をよく聴いて、授業後に簡単に復習することを怠らないこと。授業終了後講義室で、随時質問等に応じる。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 後期( 2単位: 60 時間)

(授業概要)

1.救命救命医療の概要と救急処置法について概説する。リハビリテーション医療や医療福祉の分野に必要な救急病態を理解し、心肺蘇生、呼吸管理等の救命救命医療について学習する。次に、外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科・婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、老年医学領域の代表的疾患について、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。  
2.栄養学は、健康・医療福祉・スポーツなど多くの領域に関わっている。健康と栄養に対する理解を深めるために、栄養学と病態・疾病の食事療法に関する基本を学び、将来のリハビリテーションの現場に立つときの力を身につける。主に、配布資料等を用いて講義する。  
3.薬理作用の発現(疾患への適用)について薬物動態を中心に授業を進める。

(到達目標)

1.救命救命医療の病態を理解し、心肺蘇生、呼吸管理等の救急処置法を理解・修得する。  
2.外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科・婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、老年医学領域の代表的疾患について、特徴的病態、症状、検査、評価、治療を説明できる。  
3.外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科・婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、老年医学領域の疾患の症例を担当した場合に、医師や看護師に対してリハビリテーション専門職としての情報収集ができる。  
4.消化・吸収の仕組み、および五大栄養素の働きを理解し、リハビリテーションにおける栄養ケアの役割を理解して説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	救命救命医療における心肺蘇生法・ショック対応	立石 洋	講義
2	2	救命救命医療における呼吸管理	立石 洋	講義
3	2	救命救命医療における中心静脈栄養・輸血療法	立石 洋	講義
4	2	救命救命医療における救急処置・ICUの役割	立石 洋	講義
5	2	外科的処置(機械的損傷・非機械的損傷)	立石 洋	講義
6	2	外科的処置(感染性疾患・末梢血行障害・腫瘍・臓器移植)	立石 洋	講義
7	2	脳神経外科概論 1.解剖生理 2.症候と病態 3.補助診断法 4.主な疾患	立石 洋	講義
8	2	皮膚疾患概論 1.解剖生理 2.症候と病態 3.補助診断法 4.主な疾患	立石 洋	講義
9	2	泌尿器科・生殖器疾患概論 1.解剖生理 2.症候と病態 3.補助診断法 4.主な疾患	立石 洋	講義
10	2	婦人科・産科疾患概論 1.解剖生理 2.症候と病態 3.補助診断法 4.主な疾患	立石 洋	講義
11	2	眼疾患概論 1.解剖生理 2.症候と病態 3.補助診断法 4.主な疾患	立石 洋	講義
12	2	耳鼻咽喉科疾患概論 1.解剖生理 2.症候と病態 3.補助診断法 4.主な疾患	立石 洋	講義
13	2	老年医学(高齢者ケアの基本原則)	立石 洋	講義
14	2	老年医学(高齢者によく見られる疾患・高齢者において異常な症候を示す疾患)	立石 洋	講義
15	2	老年医学(高齢者における薬物療法)	立石 洋	講義
16	2	薬理学全般。特によく使われる用語について解説する。	清水 隆雄	講義
17	2	薬物動態(1)薬物の適用方法、特に経口適用と注射による違いを解説する。	清水 隆雄	講義
18	2	薬物動態(2)適用された薬の体内での動態(吸収、体内分布、代謝、排泄)について解説する。	清水 隆雄	講義
19	2	神経系の働きと薬の作用を解説する。	清水 隆雄	講義
20	2	痛みを抑えるために使われる様々な薬について考察する。	清水 隆雄	講義
21	2	・オリエンテーション:リハビリテーション栄養を学ぶ目的を知る。 ・栄養の基礎 その1	福島 洋子	講義
22	2	・栄養の基礎 その2	福島 洋子	講義
23	2	・主な病態の栄養療法の基礎	福島 洋子	講義
24	2	・主な疾患の栄養療法の基礎	福島 洋子	講義
25	2	・まとめ(第21回~25回)	福島 洋子	講義
26	2	オリエンテーション	救急指導員	講義
27	2	一次救命処置(心肺蘇生及びAEDの使い方)	救急指導員	演習
28	2	搬送法及び気道異物除去	救急指導員	演習
29	2	応急処置(止血・キズの手当・固定)の実技	救急指導員	演習
30	2	まとめ(第26回~30回)・復習・検定(筆記試験、正解率80%以上で認定証を交付)	救急指導員	講義

総括的評価

(立石)終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。  
(清水・福島)最初の授業時に複数の授業内容に関連した課題を提示しておき、最後の授業が終了後各自が興味のある課題についてレポートを作成させ評価する。

教科書:

- 1.PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版 医歯薬出版株式会社
- 2.教材「救急法基礎講習」配布

参考書:

- 1.「疾患の成り立ちと回復の促進(1) 病理学」医学書院
- 2.「老人のリハビリテーション 第8版」医学書院
- 3.「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」医歯薬出版 栢木 淳 若林秀隆
- 4.「PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養学」医歯薬出版 若林 秀雄 著
- 5.「リハビリテーション生化学・栄養学」医歯薬出版 内山 靖 他 編著
- 6.「休み時間の薬理学」(2版)丸山 敬著 講談社

その他の資料:

状況に応じ、随時、必要と思われる資料等を紹介、もしくは提示する予定である。

担当教員から

リハビリテーション医療を担う上で「医療行為」を知ることは非常に重要です。  
リハビリテーション医や主治医、執刀医へ情報収集するためには様々な知識が必要となります。1年次で難しい用語もたくさん出てきますが遠慮なくメール等で質問してください。共に学んでいきましょう!

2年次 前期( 2 単位: 40 時間)

(授業概要)

広い意味の内部障害(心臓機能障害、呼吸機能障害、腎臓機能障害、代謝障害、膀胱・直腸障害、小腸機能障害、癌のリハビリテーション)といわれる疾患それぞれに起因する運動・機能障害の成因・病態・回復過程・予後に関する知識をもとに、その理学療法(リスク管理、評価・運動療法・物理療法・ADL指導・生活環境支援)の理論と技術を習得し、臨床応用できる基礎を系統的に学習する。基本的に、呼吸理学療法技術の習得に重点をおく。

(到達目標)

- 内部障害に対するリハビリテーションを理学療法の観点から理解し、呼吸理学療法技術を中心に学習する。
1. 内部障害の定義と種類や特徴について、理学療法の観点から説明する。
  2. 内部障害患者(呼吸器疾患)に対する理学療法施行に際し必要な医学的知識を関連づける。
  3. 運動と代謝・呼吸・循環についてメカニズムを関連づける。
  4. 肺の解剖と呼吸生理および検査データについて理学療法に活用する。
  5. 内部障害各疾患に対応した運動負荷試験をあげる。
  6. 呼吸機能不全を呈する疾患と病態について理学療法と関連づける。
  7. 呼吸機能不全に対するチームアプローチの重要性を示す。
  8. 呼吸機能不全に対する日常生活指導ができる。
  9. 呼吸機能不全に対する理学療法について、手技とその手順を示す。
  10. 心機能と血液循環について理学療法に関連づける。
  11. 循環器疾患の検査・評価・病態について理学療法と関連づける。
  12. 循環器疾患に対する理学療法について、手技とその手順を示す。
  13. 循環器疾患に対するチームアプローチの重要性を示す。
  14. 循環器疾患に対する日常生活指導ができる。
  15. 代謝障害(糖尿病、高血圧症、痛風、肥満)等について理学療法と関連づける。
  16. 代謝障害(糖尿病、高血圧症、痛風、肥満)等の理学療法について、手技とその手順を示す。
  17. 腎臓機能障害の理学療法について示す。
  18. 肝臓機能障害、腸・膀胱機能障害の理学療法について示す。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	症候1: 腰痛、呼吸困難・異常、喀血・吐血、動悸・心悸亢進	富宿 明子	講義
2	2	症候2: ナゾーゼ、ショック、浮腫、発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐	富宿 明子	講義
3	2	症候3腹痛、易感染性、意識障害、めまい、頭痛、けいれん	富宿 明子	講義
4	2	呼吸器疾患1: 解剖生理学、運動学、閉塞性換気障害、拘束性換気障害	富宿 明子	講義
5	2	呼吸器疾患2: 感染性肺疾患、在宅酸素療法、呼吸リハビリテーション	富宿 明子	講義
6	2	循環器疾患1: 解剖生理学、虚血性心疾患、心不全、心弁膜疾患、先天性心疾患	富宿 明子	講義
7	2	循環器疾患2: 不整脈、心筋疾患、心膜炎、動脈疾患・末梢血管疾患、高血圧	富宿 明子	講義
8	2	消化器疾患1: 解剖生理学、症候、口腔・食道疾患、胃疾患	富宿 明子	講義
9	2	消化器疾患2: 小腸疾患、大腸疾患、肝疾患、胆のう疾患、膵疾患	富宿 明子	講義
10	2	代謝性疾患1: 生理学、糖代謝障害(糖尿病・低血糖)	富宿 明子	講義
11	2	代謝性疾患2: 脂質代謝疾患(高脂血症)、痛風、骨粗鬆症	富宿 明子	講義
12	2	内分泌疾患1: 解剖生理学、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患	富宿 明子	講義
13	2	内分泌疾患2: 副甲状腺疾患、副腎皮質・副腎髄質疾患、性腺疾患	富宿 明子	講義
14	2	泌尿器疾患: 解剖生理学、急性腎不全・慢性腎不全、前立腺疾患、その他	富宿 明子	講義
15	2	血液・造血性疾患1: 解剖生理学、貧血・多血症	富宿 明子	講義
16	2	血液・造血性疾患2: 白血病、悪性リンパ腫、出血性疾患	富宿 明子	講義
17	2	免疫関連疾患: 生理学、膠原病、膠原病類縁疾患、自己免疫疾患、免疫不全症候群	富宿 明子	講義
18	2	感染性疾患: 感染症	富宿 明子	講義
19	2	老年期疾患: 加齢に伴う生理的変化、老年症候群	富宿 明子	講義
20	2	まとめ	富宿 明子	講義

総括的評価

筆記試験にて合格者には単位を認定する。試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照してください。

教科書: 標準理学療法学・作業療法学「内科学」第3版(医学書院)

参考書: わかりやすい内科学(文光堂)  
PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート(医歯薬出版)

その他の資料:

担当教員から  
内科疾患の症候はリハビリテーション領域で多く遭遇します。前向きな態度を望みます。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業



1 年次 後期(1 単位:20 時間)

(授業概要)

人体の運動器官にかかわる疾患の診断と治療,リハビリテーションについて学習する。総論として骨・関節, 神経・筋肉の機能解剖と病態について学び,各論として骨の感染症,代謝障害,循環障害,骨系統疾患,骨・軟部腫瘍,神経・筋疾患,さらに外傷学(骨折・脱臼,脊髄損傷,スポーツ外傷)や義肢・装具についても学習する。

(教育目標)

- 1.運動器疾患の基礎となる骨・関節,筋・神経の構造や病態について十分な知識を学習する。
- 2.整形外科的な診断法や治療法について総論的な知識を学習する。
- 3.運動器障害をもたらす代表的な疾患の総論や各論について学習する。
- 4.セラピストとして遭遇することの多い外傷学に関する知識の習得を目指す。
- 5.リハチームアプローチの一員として,他職種の人たちとも協力できるセラピストを目指す。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	整形外科の基礎科学(1)(骨の発生・構造,関節の構造および病態生理など)	西山圭介	講義
2	2	整形外科の基礎科学(2)(骨格筋の構造や病態生理,神経系の基本構造など)	西山圭介	講義
3	2	整形外科の診断総論(1)(運動器の基本的な評価法について)	西山圭介	講義
4	2	整形外科の診断総論(2)(神経学的な評価法および整形外科的検査について)	西山圭介	講義
5	2	整形外科の治療総論(1)(保存療法について)	西山圭介	講義
6	2	疾患総論(1)(軟部組織・骨・関節の感染症・関節リウマチについて)	西山圭介	講義
7	2	疾患総論(2)(退行性・代謝性慢性関節疾患・四肢循環障害疾患について)	西山圭介	講義
8	2	疾患総論(3)(代謝性疾患,特に骨粗しょう症などについて 骨・軟部腫瘍について)	西山圭介	講義
9	2	疾患総論(4)(神経疾患・筋疾患について)	西山圭介	講義
10	2	疾患各論(1)(肩関節・肘関節・手関節および手指について)	西山圭介	講義

総括的評価

定期試験にて行う

教科書： 標準整形外科学(医学書院)

参考書：

その他の資料：適宜プリントなど配布

担当教員から

授業をよく聴いて、授業後に簡単に復習することを怠らないこと。授業終了後講義室で、随時質問等に応じる。

実務経験のある教員による実践的授業

2年次 前期(1単位:20時間)

(授業概要)

人体の運動器官にかかわる疾患の診断と治療,リハビリテーションについて学習する。総論として骨・関節,神経・筋肉の機能解剖と病態について学び,各論として骨の感染症,代謝障害,循環障害,骨系統疾患,骨・軟部腫瘍,神経・筋疾患,さらに外傷学(骨折・脱臼,脊髄損傷,スポーツ外傷)や義肢・装具についても学習する。

(教育目標)

- 1.運動器疾患の基礎となる骨・関節,筋・神経の構造や病態について十分な知識を学習する。
- 2.整形外科的な診断法や治療法について総論的な知識を学習する。
- 3.運動器障害をもたらす代表的な疾患の総論や各論について学習する。
- 4.セラピストとして遭遇することの多い外傷学に関する知識の習得を目指す。
- 5.リハチームアプローチの一員として,他職種の人たちとも協力できるセラピストを目指す。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	疾患各論(2)(頸椎・胸椎・腰椎について)	西山圭介	講義
2	2	疾患各論(3)(股関節手・膝関節について)	西山圭介	講義
3	2	疾患各論(4)(膝関節について)講演-1「老化は脚から-特に膝関節を中心に-」	西山圭介	講義
4	2	疾患各論(5)(足関節・足趾について 軟部組織損傷,骨折・脱臼の総論について)	西山圭介	講義
5	2	外傷各論(1)(上肢と下肢の外傷について)	西山圭介	講義
6	2	外傷各論(2)(脊椎・脊髄損傷について)	西山圭介	講義
7	2	外傷各論(3)(末梢神経損傷について スポーツ障害について)	西山圭介	講義
8	2	リハビリ(1)(運動器疾患のリハビリテーションについて)	西山圭介	講義
9	2	リハビリ(2)(四肢切断と義肢および補装具について)	西山圭介	講義
10	2	リハビリ(3)(補装具について)講演-2「セラピストに必要な福祉用具の知識について」	西山圭介	講義

総括的評価

定期試験にて行う

教科書：標準整形外科学(医学書院)

参考書：

その他の資料：適宜プリントなど配布

担当教員から

リハビリテーションの臨床に即した講義を行いますので,しっかり聞き,消化して欲しい。  
授業をよく聴いて,授業後に簡単に復習することを怠らないこと。授業終了後講義室で,随時質問等に応じる。

実務経験のある教員による実践的授業

2年次 前・後期(2単位:40時間)

(授業概要)

神経内科疾患と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、神経症候学の概要、及び主要な神経疾患である脳卒中、パーキンソン病などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病等のリハビリテーションの対象となることの多い疾患について、病態、病理、症状、治療、予後等について学習する。

(教育目標)

神経機能については機能解剖学と神経生理学に基いて理解をすること、リハビリテーションに必要な神経学を学び、学生は卒業後に療法士として神経疾患のリハビリテーションが行えるように神経疾患の病態、病理、症状、予後、治療、リハビリテーションに関する知識の習得を目標にする。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	総論1	黒木 辰朗	講義
2	2	総論2	黒木 辰朗	講義
3	2	意識障害	黒木 辰朗	講義
4	2	高次脳機能障害	黒木 辰朗	講義
5	2	運動マヒ	黒木 辰朗	講義
6	2	錐体外路障害	黒木 辰朗	講義
7	2	共調運動障害	黒木 辰朗	講義
8	2	不随意運動	黒木 辰朗	講義
9	2	脳血管障害1	黒木 辰朗	講義
10	2	脳血管障害2	黒木 辰朗	講義
11	2	脳血管障害3	黒木 辰朗	講義
12	2	変性疾患1	黒木 辰朗	講義
13	2	変性疾患2	黒木 辰朗	講義
14	2	脱髄疾患1	黒木 辰朗	講義
15	2	脱髄疾患2	黒木 辰朗	講義
16	2	末梢神経障害1	黒木 辰朗	講義
17	2	末梢神経障害2	黒木 辰朗	講義
18	2	筋疾患	黒木 辰朗	講義
19	2	神経筋接合部疾患	黒木 辰朗	講義
20	2	まとめ	黒木 辰朗	講義

総括的評価

小テスト(10%)、定期試験(80%)の成績、ならびに講義への出席状況(10%)で判断する。

教科書:

標準理学療法学作業療法学 神経内科学 医学書院

参考書:

イラストでわかる PTOTSTのための神経内科学 メディカ出版

その他の資料:

授業に則したプリントを配布

担当教員から

リハの対象となる疾患がたくさん関係します 頑張って下さい

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 前・後期(2単位:40時間)

(授業概要)

統合失調症・神経症性障害・てんかん・気分障害・アルコール依存症・認知症について学ぶ。

(教育目標)

精神医学の対象である精神障害について学ぶことで、精神科領域の疾患について整理する。

zeW

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	神経症性障害／不安神経症(特徴・①全般性不安障害②パニック障害③恐怖症性不安障害)	川津 優	講義
2	2	神経症性障害／不安神経症(④社交不安障害⑤特定の恐怖症⑥強迫神経症)	川津 優	講義
3	2	神経症性障害／ストレス関連障害(①急性ストレス反応②PTSD)	川津 優	講義
4	2	神経症性障害／ストレス関連障害(③適応障害④)／解離を中心とする神経症性障害、導入	川津 優	講義
5	2	解離を中心とする神経症性障害(①解離性健忘②解離性遁走③解離性昏迷④トランス)	川津 優	講義
6	2	解離を中心とする神経症性障害(①解離性運動障害②解離性けいれん③解離性知覚麻痺)	川津 優	講義
7	2	解離を中心とする神経症性障害(④多重人格)身体表現性障害(身体化障害・心気症障害)	川津 優	講義
8	2	神経症性障害・まとめ	川津 優	講義
9	2	統合失調症1/統合失調症の全体像、予後	川津 優	講義
10	2	統合失調症2/統合失調症症状発現期、思考内容の異常	川津 優	講義
11	2	統合失調症3/統合失調症の思考過程の異常、幻覚、自我障害	川津 優	講義
12	2	統合失調症4/統合失調症の感情障害、意欲・行動障害、陽性症状と陰性症状	川津 優	講義
13	2	統合失調症5/統合失調症の学習障害、障害特性(昼田)、認知行動療法、病型	川津 優	講義
14	2	気分障害1/発病状況論、うつ病の症状	川津 優	講義
15	2	気分障害2/躁病の症状	川津 優	講義
16	2	アルコール依存症1/依存の3要素、要因、離脱症状	川津 優	講義
17	2	アルコール依存症2/アルコール依存の精神症状、アルコール精神病、自助グループ(AAと断酒会)	川津 優	講義
18	2	てんかん1/概念、成因、全般発作(欠神/ミオクローニー/強直間代発作/ウエスト症候群/レンノックスガストー症候群)	川津 優	講義
19	2	てんかん2/部分発作(ジャクソン発作/複雑部分発作など)	川津 優	講義
20	2	認知症/認知症、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症	川津 優	講義

総括的評価

上記の内容を踏まえた筆記試験による評価

教科書: 現代臨床精神医学

参考書: 標準理療法学・作業療法学専門基礎分野 精神医学  
学生のための精神医学

その他の資料:

担当教員から

各々の障害の特徴を掴み、その原因や病態、予後、予防などを知っていくと面白い科目だと思う。覚えることも多いが、現場では患者さんの数は増え、理学療法士も接する機会が増えつつある。まず、この基礎を根底に勉強していけば、なぜこの治療が必要なのかがおのずと理解できると思う。

実務経験のある教員による実践的授業

2年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

①防衛機制を学ぶことで、現実への適応について考える。②精神科における薬物療法の特徴を理解し、臨床実習における対象者の行動を多角的視点でとらえる。③障害受容には段階があることを知り、その流れに沿ったアプローチを行うことに努める。

(教育目標)

①精神科実習において、対象者の言動を『病気だから』と片付けるのではなく、多角的な視点を持てるようになる。  
 ②身体の機能ばかりでなく、心にも働きが有ることを知ることで、対象者の心の動きまで配慮できるようになる。  
 ③気分障害について理解を深める。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	精神科領域における薬物療法の特徴(国試対策のポイント/抗精神病薬の副作用について①)	長井龍	講義
2	2	精神科領域における薬物療法の特徴(抗精神病薬の副作用②)	長井龍	講義
3	2	精神科領域における薬物療法の特徴(非定型抗精神病薬の副作用)	長井龍	講義
4	2	精神科領域における薬物療法の特徴(抗不安薬・抗躁薬・抗うつ薬の副作用について)	長井龍	講義
5	2	精神科領域における薬物療法の特徴(抗てんかん薬・睡眠薬・その他)	長井龍	講義
6	2	精神科領域における薬物療法の特徴(抗てんかん薬・睡眠薬・その他)	長井龍	講義
7	2	障害受容について①	長井龍	講義
8	2	障害受容について②	長井龍	講義
9	2	双極性障害について(うつ病と双極性障害の違いについて)	長井龍	講義
10	2	防衛機制(抑圧・逃避・合理化・知性化)について	長井龍	講義
11	2	防衛機制(投影・反動形成・同一化)について	長井龍	講義
12	2	防衛機制(否認・昇華・退行・置き換え・代償・補償)	長井龍	講義
13	2	防衛機制(分離・打ち消し)/失敗した防衛機制	長井龍	講義
14	2	双極性障害について(うつ病と双極性障害の違いについて)	長井龍	講義
15	2	躁状態の概要	長井龍	講義

総括的評価

筆記試験にて評価します

教科書:

その都度資料をプリントして配布

参考書:

その他の資料:

担当教員から

対象者の行動を、単に症状によるものにとらえるのではなく、本人の性格によるものなのか、環境の影響によるものか、あるいは服用している向精神薬の影響なのかを考える材料として各種のお薬の副作用や防衛機制について、実例を通して教授する

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 後期(1単位:30時間)

(授業概要)

胎児期から新生児期、乳児期、学童期から、青年期、老年期に至るまでの、身体的な発育・発達及び精神的な発達について基本的な課題を学び、それぞれの時期の発達の特徴を体系的に理解する。また、発育・発達に関係する因子と発達理論及び発達評価法の概略を学ぶ。

(教育目標)

- (1)発達は、身体面、心理面、社会面が生涯を通して変容していく過程であることを知る
- (2)発達段階と発達課題を理解する
- (3)さまざまな機能・能力ごとの経年的変化を理解する。
- (4)いわゆる正常発達を理解した上で、発達過程で支援・援助を必要とする対象者(児)を知り、医療専門職者としての基盤を築く。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	胎生期の発達について理解する。	黒木 辰朗	講義
2	2	胎生期から新生児期の発達について、正常な姿勢反射を理解する。	黒木 辰朗	講義
3	2	正常運動について、生下時からの発達から考えることができる。	黒木 辰朗	講義
4	2	姿勢反射・反応について、時期ごとに出現する反射・反応を理解できる。	黒木 辰朗	講義
5	2	姿勢反射・反応について、時期ごとに出現する反射・反応を理解でき、また手技として誘発できる。	黒木 辰朗	講義
6	2	姿勢としての臥位の発達を理解できる。	黒木 辰朗	講義
7	2	姿勢としての臥位の発達を理解でき、運動に即した誘発手技を理解する。	黒木 辰朗	講義
8	2	姿勢としての座位の発達を理解できる。	黒木 辰朗	講義
9	2	姿勢としての座位の発達を理解でき、運動に即した誘発手技を理解する。	黒木 辰朗	講義
10	2	姿勢としての立位の発達を理解できる。	黒木 辰朗	講義
11	2	姿勢としての立位の発達を理解でき、運動に即した誘発手技を理解する。	黒木 辰朗	講義
12	2	姿勢保持に必要な身体機能を理解し、的確に評価・分析することができる。	黒木 辰朗	講義
13	2	心の発達について理解する。	黒木 辰朗	講義
14	2	コミュニケーション機能の発達について理解する。	黒木 辰朗	講義
15	2	コミュニケーション機能の発達について理解する。	黒木 辰朗	講義

総括的評価

全講義終了後の筆記試験にて判定

教科書：人間発達学テキスト 南江堂

参考書：

その他の資料：

担当教員から

発達機能分野で大切になります しっかりと理解して行きましょう

実務経験のある教員による実践的授業

授業科目名：小児科学

担当教員：川島 清美

2年次 前期（1単位：30時間）

（授業概要）

小児科学は当初内科学の一分野として取り扱われたが、解剖学的な形態や生理学的機能は成人とほぼ同じでも、生体の発達および発育過程において発生する異常とか、獲得してゆく免疫機能にまつわる疾患を正しく理解し、早い時期に食い止めねばならない症状などを知っておかねばならない。さらに近年、出生前診断法が確立されるようになって新しい知見が要求されつつあり、これらを踏まえて現代の小児科学の地位と役割を理解させる。

（到達目標）

遺伝子解明によって、これまで難病・奇病とされていた原因不明の疾患が次々と明らかにされ、小児の奇形や先天性疾患の大半が遺伝子にまつわることがわかってきた、その実態を正しく把握し、出生後の治療ないしはリハビリによって社会的適応性を早期に見出せるような小児医学のありかた、近年の出生前診断および臓器移植にまつわる倫理観の養成にも言及したい。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	小児科学概論I	川島清美	講義
2	2	新生児・未熟児疾患	川島清美	講義
3	2	先天異常と遺伝病	川島清美	講義
4	2	神経・筋・骨疾患	川島清美	講義
5	2	循環器疾患	川島清美	講義
6	2	呼吸器疾患	川島清美	講義
7	2	感染疾患；	川島清美	講義
8	2	消化器疾患	川島清美	講義
9	2	内分泌・代謝疾患	川島清美	講義
10	2	血液疾患	川島清美	講義
11	2	免疫・アレルギー失陥・膠原病、	川島清美	講義
12	2	腎、泌尿器、生殖器疾患	川島清美	講義
13	2	小児腫瘍疾患	川島清美	講義
14	2	心身症・重症心身障害児	川島清美	講義
15	2	全体の復習	川島清美	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。  
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学(医学書院)

参考書：最新育児・小児病学(改訂第6版・南江堂／黒田泰弘監修)

その他の資料：必要に応じてプリントを配布

担当教員から

上記の通り

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

リハビリテーション医学・医療・介護について総括的に述べる。リハビリテーションの概念、リハビリテーション医学・医療の歴史、リハビリテーション医療の流れ、病院・施設・地域におけるリハビリテーションの医療の課題と展望、リハビリテーションにおけるチームアプローチ、今日の問題などの教授を通じて専門職としてのあり方、役割を自ら考える素地を形成する。

(到達目標)

障害者や高齢者が社会の中で、その人らしく生活していく上で重要なリハビリテーション医学・医療の思想を理解し、医療専門職としての役割を実践するのに必要な知識と技術を身につけ、自ら考える基本を学習する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	リハビリテーションとは(語源・WHO定義、理念、歴史、ノーマライゼーションの考え方など)	小野 恵	講義
2	2	医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わり方、医学的リハビリと職業・社会的リハビリの接点	小野 恵	講義
3	2	リハビリテーション・マインド(障害を診る心、社会復帰・社会参加を目指す・チームを大事になど)	小野 恵	講義
4	2	廃用症候群について	小野 恵	講義
5	2	回復期リハビリテーション病棟について	小野 恵	講義
6	2	介護予防(介護保険の概要・介護予防の施策など)	小野 恵	講義
7	2	疾患と障害の関係(国際障害分類・国際生活機能分類、障害受容など)	小野 恵	講義
8	2	機能障害評価・能力障害の評価	小野 恵	講義
9	2	歩行・装具・福祉用具機器など	小野 恵	講義
10	2	医療・社会福祉と法律・リハビリテーション概論 I まとめ	小野 恵	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。

教科書：リハビリテーション総論

参考書：現代リハビリテーション医学、リハビリテーションビジュアルブック

その他の資料：必要に応じて資料配布

担当教員から

リハビリテーション医学・歴史・定義・概念を理解し、高齢者や障害者のある人がノーマライゼーションの思想の下で、生き生きと生活していくことを支援する専門職として、考える力を養う。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。



1年次 後期(1単位:30時間)

(授業概要)

社会資源や社会保障、地域包括ケアシステム、リハビリテーション関連職、他職種連携について総括的に述べる。また、多職種連携において各々の状況における連携を想定し、専門職としてのあり方、役割を自ら考える素地を形成する。

(到達目標)

障害者や高齢者が社会の中で、その人らしく生活していく上で必要な制度、地域包括ケアシステム、他職種連携における役割を理解し、専門職として実践することに必要な知識と技術を身につけ、自ら考える基本を学習する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	社会資源(福祉用具・補装具・治療用装具・義肢・日常生活用具・その他用具など)	小野 恵	講義
2	2	社会保障(医療・福祉・介護保険・年金・労働保険など)	小野 恵	講義
3	2	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム	小野 恵	講義
4	2	リハビリテーション科医・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリテーション看護	小野 恵	講義
5	2	リハビリテーション関連職種(義肢装具士、社会福祉士・介護支援専門員・介護福祉士など)	小野 恵	講義
6	2	カンファレンスについて・コミュニケーションについて	小野 恵	講義
7	2	多職種連携について(なぜ多職種連携が必要なのか)	小野 恵	講義
8	2	各々の部署や状況における多職種連携(病棟における連携・病院と地域・在宅医療・地域医療)	小野 恵	講義
9	2	ケースカンファレンス①	小野 恵	講義
10	2	ケースカンファレンス②・リハビリテーション概論Ⅱまとめ	小野 恵	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。

教科書：リハビリテーション総論

参考書：現代リハビリテーション医学、リハビリテーションビジュアルブック

その他の資料：必要に応じて資料配布

担当教員から

リハビリテーションに必要な制度やシステム、他職種連携の方法を知り、高齢者や障害者のある人がノーマライゼーションの思想の下で、生き生きと生活していくことを支援する専門職として考える力を養う。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

授業科目名：リハビリテーション医学

担当教員：立石 洋

1年次:後期(1単位:20時間)

(授業概要)

リハビリテーション医学の目的は、病気や外傷により生じた障害を医学的に診断・治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することである。リハビリテーション領域で対象となる主な疾患の病態を理解し、そのリハビリテーションがどのように進められるのか、要点を絞って解説する。

(教育目標)

リハビリテーション医学の基本的な知識を習得し、リハビリテーション対象疾患について理解を深め、リハビリテーションに対する自分の考えを持つことで今後の専門分野での学習の基礎を作る。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	リハビリテーション概論(関連職種、障害の構造、カルテ記載法、SOAP)	立石 洋	講義
2	2	機能障害①(関節可動域・筋力)	立石 洋	講義
3	2	機能障害②(失語・失認・失行・高次脳機能障害)	立石 洋	講義
4	2	疾患別リハビリテーション①(脳卒中)	立石 洋	講義
5	2	疾患別リハビリテーション②(パーキンソン病・脊髄小脳変性症)	立石 洋	講義
6	2	疾患別リハビリテーション③(多発性硬化症・神経筋疾患)	立石 洋	講義
7	2	疾患別リハビリテーション④(脊髄損傷)	立石 洋	講義
8	2	疾患別リハビリテーション⑤(切断・運動器疾患・RA)	立石 洋	講義
9	2	疾患別リハビリテーション⑥(外傷性脳損傷・脳性麻痺)	立石 洋	講義
10	2	疾患別リハビリテーション⑦(循環器・呼吸器・がんなど)	立石 洋	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。  
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:

PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論. 椿原彰夫. 診断と治療社

参考書:

その他の資料:

教科書の補足として、適宜、スライド配布資料、他ハンドアウトを配布することがあります。

担当教員から

他の授業と内容的に重複する部分が多いですが、知識の確認・整理ができるように、他の授業の教科書やファイルなども確認してください。講義毎に前回の講義内容について簡単な小テストを行うので、復習をしてください。

実務経験のある教員による実践的授業

1年次 前期(1単位：30時間)

(授業概要)

作業療法の基礎となる哲学・概念・歴史を知り、作業療法士としての資質と適性について学ぶ。作業療法を学習するにあたって必要とされる一般基礎知識を解説し、作業療法の専門性を導入的に説明する。

(教育目標)

- ・専門職としての作業療法士の備えるべき資質・適性と教育内容を理解する。
- ・作業療法士の果たすべき社会的責任について理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	「作業」とは-作業療法にとっての「作業」の意味	谷口 慶子	講義
2	2	作業療法の領域	谷口 慶子	講義
3	2	専門職としての作業療法士～対象者中心のサービスとは	谷口 慶子	講義
4	2	作業療法の精神と作業療法士に求められる資質・適性	谷口 慶子	講義
5	2	作業療法の歴史	谷口 慶子	講義
6	2	法規(理学療法士及び作業療法士法)	谷口 慶子	講義
7	2	精神科デイケア	谷口 慶子	講義
8	2	精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律・医療観察法	谷口 慶子	講義
9	2	障害者総合支援法・介護保険法	谷口 慶子	講義
10	2	感染対策・リスクマネジメント	谷口 慶子	講義
11	2	倫理・面接技術	谷口 慶子	講義
12	2	地域生活移行支援	谷口 慶子	講義
13	2	医療記録・症例研究	谷口 慶子	講義
14	2	精神機能分野における作業療法過程	谷口 慶子	講義
15	2	全体のまとめ	谷口 慶子	講義

総括的評価

上記の内容を踏まえた筆記試験による評価

教科書：標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第3版

参考書：メジカルビュー社 作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業療法学概論 改訂第2版

その他の資料：適宜プリントを配布

担当教員から

作業療法の総論であり、「作業療法って？」と本当に分からない状態から入ってくる1年生には理解が難しかった印象。実習の経験がない学生にどのように伝えようか、右往左往しながら行っていく必要があった。学生にはできる限り自分で調べたあと、説明を加えて講義を行う。

実務経験のある教員による実践的授業

作業療法士として臨床経験で学んだ、現場での仕事の流れや他部門のスタッフとの連携を教授する。

1年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

作業療法の基礎となる哲学・概念・歴史を知り、作業療法士としての資質と適性について学ぶ。作業療法を学習するにあたって必要とされる一般基礎知識を解説し、作業療法の専門性を導入的にPBLを用い能動的に学習する。

(教育目標)

- ・作業療法にとっての作業の意味と役割を学び、その歴史的な位置づけを理解する。
- ・作業療法実践において基本的な一連の過程について理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	・オリエンテーション(PBL学習説明、グループ分け、発表説明)	日高 俊和	講義
2	2	・各テーマPBL・GW	日高 俊和	演習
3	2	・各テーマPBL・GW	日高 俊和	演習
4	2	・発表	日高 俊和	演習
5	2	・各テーマPBL・GW	日高 俊和	演習
6	2	・各テーマPBL・GW	日高 俊和	演習
7	2	・発表	日高 俊和	演習
8	2	・各テーマPBL・GW	日高 俊和	演習
9	2	・各テーマPBL・GW	日高 俊和	演習
10	2	・発表	日高 俊和	演習
11	2	・各テーマPBL・GW	日高 俊和	演習
12	2	・各テーマPBL・GW	日高 俊和	演習
13	2	・発表	日高 俊和	演習
14	2	・各テーマPBL・GW	日高 俊和	演習
15	2	・発表	日高 俊和	演習

総括的評価

①発表状況、②グループワークの協力度、③発表聴講態度を採点基準とします。

教科書：標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論

参考書：

その他の資料：

担当教員から

作業、作業療法を学ぶ根幹的な科目になります。また、PBLを用いたアクティブラーニングを用い能動的に学び、自分で発表します。グループワークを通して幅広く知識を得ます。

実務経験のある教員による実践的授業

作業療法の概念や法律、臨床で用いられる理論や手技など、作業療法士としての臨床経験を踏まえて、具体的例などを示し教授する。  
また、ICFの概念、作業療法の適応範囲、作業療法のクリニカルリーズニングを具体的症例等を紹介し、教授する。

1 年次 前期 (1 単位: 30 時間)

(授業概要)

作業療法の「作業」とは何かを理解する。  
作業療法と作業・作業分析の関係と仕組みを学習する。

(教育目標)

人間の健康な生活と作業とのかわりを知り、作業療法で使う作業はどのように使われているのか。作業が治療、療法となりうる観点を総括的に学ぶ。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	作業療法における作業の意味を考える。	松元 大介	講義
2	2	刺し子(日常生活で使える作品を作成することの意味を実感する。)	松元 大介	演習
3	2	刺し子(日常生活で使える作品を作成することの意味を実感する。)	松元 大介	演習
4	2	刺し子(日常生活で使える作品を作成することの意味を実感する。)	松元 大介	演習
5	2	刺し子(日常生活で使える作品を作成することの意味を実感する。)	松元 大介	演習
6	2	エコクラフト(片麻痺でできる活動の興味・理解を図る。)	松元 大介	演習
7	2	年間のカレンダー作りを通し季節感や人との交流を体験する。折り紙やちぎり作業。	松元 大介	演習
8	2	年間のカレンダー作りを通し季節感や人との交流を体験する。創意工夫する。	松元 大介	演習
9	2	年間のカレンダー作りを通し季節感や人との交流を体験する。創意工夫する。	松元 大介	演習
10	2	年間のカレンダー作りを通し季節感や人との交流を体験する。創意工夫する。	松元 大介	演習
11	2	お化け屋敷。計画を立てて行える。協力できる。	松元 大介	演習
12	2	お化け屋敷。計画を立てて行える。協力できる。	松元 大介	演習
13	2	アンデルセン。作業分析を他者に説明できる。方法を他者に教えながら作品作りを行う。	松元 大介	演習
14	2	アンデルセン。作業分析を他者に説明できる。方法を他者に教えながら作品作りを行う。	松元 大介	演習
15	2	自分の趣味活動や好きなものを作る。	松元 大介	演習

総括的評価

まずは作業とはなにかということ、実際の作業を通して(作品を作ること)学んでいく。その中で、作業工程とはどんなものか、集団は作業にどのような影響を及ぼすかということ学ぶことが出来た。

教科書:

参考書:

その他の資料:

担当教員から

作業は得意・不得意があり学生もそれぞれ悪戦苦闘したり、楽しんだりして取り組んでいた。学生がそのなかで、実際患者さんに施行する際も、どのような点に注意して行うことが出来るか理解しながら学ぶことを意識してほしい。

実務経験のある教員による実践的授業

最近の学生にあっては、様々な作業を体験することがほとんどなくなっている。そこで授業では作業療法士としての臨床経験を持つ担当教員が、実際に作品作りを行うことで、作業に取り組む楽しさを実感してもらい、学生同士でその楽しさを共有することを目標として授業を行う。

2年次 前期(1単位：30時間)

(授業概要)

活動と心身機能・構造・環境の関係を理解し、作業療法における作業および作業活動について学ぶ。また、作業の文化的、個人的意味を理解し、人と作業と環境の相互作用の結果としての作業遂行を考え、作業の意義を考える。

(教育目標)

活動と心身機能・構造・環境の関係を理解し、作業分析・動作分析を行なえる。また様々な作業分析法学習理論を知る。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	「作業」「活動」「作業活動」の定義を確認する。	宇都 未佑	講義
2	2	「生活」と「作業」の関連を知る。	宇都 未佑	講義
3	2	作業遂行理論について「カナダ作業遂行モデル」を通して理解する。	宇都 未佑	講義
4	2	作業分析、動作分析、運動分析の流れを知る。	宇都 未佑	講義
5	2	今までの授業内容の確認をする。作業分析実習についての説明。	宇都 未佑	講義
6	2	グループに分かれて作業分析する。	宇都 未佑	演習
7	2	作業分析結果を各グループごとに発表する。	宇都 未佑	演習
8	2	作業分析結果を各グループごとに発表する。	宇都 未佑	演習
9	2	呼吸器系・循環器系・自律神経系の測定と分析法を知る。	宇都 未佑	講義
10	2	運動系・感覚系・精神神経系の測定と分析法を知る。	宇都 未佑	講義
11	2	心理検査と分析、自覚的疲労の評定などを知る。	宇都 未佑	講義
12	2	生活環境の測定と分析、作業姿勢と作業域の測定と分析法を知る。	宇都 未佑	講義
13	2	基礎的な学習理論を知る。	宇都 未佑	講義
14	2	作業学習の指導法を知る。	宇都 未佑	講義
15	2	改めて作業の治療的応用を確認する。	宇都 未佑	講義

総括的評価

出席(20%)・レポート(80%)で評価する

教科書：作業活動実習マニュアル 医歯薬出版

参考書：

その他の資料：適宜プリントを配布します

担当教員から

作業、作業活動の意味を確認しその治療的応用を考えていきます。

実務経験のある教員による実践的授業

作業療法における作業動作分析について、作業療法士としての臨床経験を持つ担当教員が教授する。講義では基礎的な作業動作分析の知識から、臨床での経験を活かして模擬症例を通して作業動作分析の評価治療への利用についても教授する。

1年次 前期( 1単位：40時間)

(授業概要)

作業について治療効果や作業種目の治療する視点で考えられる。また、作業を分析し、治療する際の作業について根拠を理解する。作業活動の理解と治療に応用する要因を明らかにする。

(教育目標)

- ・作業の治療効果を考えながら自ら作業について積極的に興味を持ち活動種目を多く経験する。
- ・作業を経験し、治療効果について自ら説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	陶芸(概論1)	村岡 良寛	演習
2	2	陶芸(土練り1)	村岡 良寛	演習
3	2	陶芸(土練り2)	村岡 良寛	演習
4	2	陶芸(手捻り)	村岡 良寛	演習
5	2	陶芸(ろくろ)	村岡 良寛	演習
6	2	陶芸(素焼き)	村岡 良寛	演習
7	2	陶芸(色絵つけ)	村岡 良寛	演習
8	2	陶芸(本焼)	村岡 良寛	演習
9	2	陶芸(窯だし まとめ)	村岡 良寛	演習
10	2	陶芸(まとめ)	村岡 良寛	演習
11	2	お化け屋敷。計画を立てて行える。協力できる。	谷口 慶子	演習
12	2	お化け屋敷。計画を立てて行える。協力できる。	谷口 慶子	演習
13	2	革細工(コースター)。作業分析を他者に説明できる。方法を他者に教えながら作品作りを行う。	谷口 慶子	演習
14	2	革細工(コースター)。作業分析を他者に説明できる。方法を他者に教えながら作品作りを行う。	谷口 慶子	演習
15	2	工作(自己紹介・折り紙)	谷口 慶子	演習
16	2	工作(マスク作り)	谷口 慶子	演習
17	2	工作(マスク作り)	谷口 慶子	講義
18	2	工作(アイロンビーズ)	谷口 慶子	演習
19	2	工作(アイロンビーズ)	谷口 慶子	講義
20	2	調理	谷口 慶子	演習

総括的評価

作品をもって、期限内に提出できることや完成させること。協力すべき時に相手のことも考えて行動できるかどうか。グループ活動での様子。

教科書：作業活動実習マニュアル 医歯薬出版

参考書：

その他の資料：

担当教員から

入学当初と比べ、作業活動を共にするなかで意見交換や発言する場面が増えていったように見える。作業療法はまだ理解できなくても人との寄り添い方や協力することの大切さは学び取ってくれたように見える。

実務経験のある教員による実践的授業

--

1年次 後期( 1単位: 30時間)

(授業概要)

・作品を初めて作るときの自身の気持ちに注意を払い、どのように整理したらよいかを考える機会とする。  
 ・作業について治療効果や作業種目を治療する視点で考えられる。また、作業を分析し、治療する際の作業について根拠を理解する。

(教育目標)

・作業の治療効果を考えながら自ら作品作りに積極的に興味を持ち、活動種目を多く経験する。  
 ・作業を経験し、治療効果について自ら説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	クラフト類を詐欺用療法として活用する意味を考える。		講義
2	2	塗り絵／クリスマスカード(色鉛筆・折り紙・マスキングテープ・ハサミ・のり・カッターを準備)		演習
3	2	塗り絵／クリスマスカード(色鉛筆・折り紙・マスキングテープ・ハサミ・のり・カッターを準備)		演習
4	2	ミニツリーの作成(折り紙包装紙・のり・ハサミ・カッター・カッターマット)		演習
5	2	ミニツリーの作成(折り紙包装紙・のり・ハサミ・カッター・カッターマット)		演習
6	2	キャンドルホルダー(折り紙・ピン・ハサミ・カッター・カッターマット)		演習
7	2	羽子板の壁飾り(千代紙・折り紙・のり・ハサミ・ホチキス)		演習
8	2	羽子板の壁飾り(千代紙・折り紙・のり・ハサミ・ホチキス)		演習
9	2	絵合わせゲーム(色鉛筆・色ペン・のり・ハサミ)		演習
10	2	絵合わせゲーム(色鉛筆・色ペン・のり・ハサミ)		演習
11	2	お化け屋敷。本番の前日準備①	松元 大介	演習
12	2	お化け屋敷。本番の前日準備②	松元 大介	演習
13	2	お化け屋敷振り返り。集団活動・集団が個人に与える影響について。	松元 大介	演習
14	2	革細工・コースターをデザインする。(デザインの考案)	松元 大介	演習
15	2	革細工・コースター(ボペンを用いた図案トレース・スーペルカッターで図案をカット)	松元 大介	演習
16	2	革細工・コースター(刻印)	松元 大介	演習
17	2	革細工・コースター(刻印)	松元 大介	演習
18	2	アンデルセンの小物入れ	松元 大介	演習
19	2	アンデルセンの小物入れ	松元 大介	演習
20	2	まとめ・作業療法と作品作りについて	松元 大介	講義

総括的評価

作品への取り組み方と作品の出来具合から評価する。

教科書: 作業活動実習マニュアル(医歯薬出版)

参考書:

その他の資料:

担当教員から

作業は楽しいこと。それが作業療法の原動力になることを実際の体験を通して実感することを狙いとする。

実務経験のある教員による実践的授業



1年次 後期(1単位:20時間)

(授業概要)

・作業療法領域共通の評価法の学習、演習の理解。

(教育目標)

・作業療法領域共通の評価法を習得する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	評価の目的と意義(EBP、情報収集、分析など)	日高 俊和	講義
2	2	面接法・観察法、形態測定	日高 俊和	演習
3	2	筋緊張検査	日高 俊和	演習
4	2	関節可動域測定	日高 俊和	演習
5	2	筋力検査	日高 俊和	演習
6	2	知覚検査	日高 俊和	演習
7	2	反射検査	日高 俊和	演習
8	2	姿勢反射検査	日高 俊和	演習
9	2	脳神経検査	日高 俊和	演習
10	2	ADL・IADL検査	日高 俊和	演習

総括的評価

上記を踏まえた筆記試験による評価

教科書：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学  
ベッドサイドの神経の診かた

参考書：

その他の資料：

担当教員から

初めての評価の具体的な勉強になります。しっかりと学習しましょう。

実務経験のある教員による実践的授業

基本的な作業療法評価を習得できるように知識はもちろんのこと、実技ではパートナーと練習する中で基本的な技術を習得すると同時に実際の患者を評価する時にスムーズに行えるよう、臨床経験を持つ担当教員が経験を踏まえ、実践的な見地から指導する。

2年次 前期(1単位:20時間)

(授業概要)

整形疾患領域における評価法と治療手段や禁忌事項などについて理解する。  
臨床現場での症例や疾患別の評価方法を体験する。

(教育目標)

運動学、解剖学の理解と疾患の特性に合った評価方法の会得。  
作業療法士として身体機能評価とADL評価を結び付けて理解し、治療に応用できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	骨折について概要と各上肢骨折の特徴と合併症	宇都 未佑	講義
2	2	骨折について評価と治療	宇都 未佑	講義
3	2	骨折に適応となるギプスや包帯の巻き方	宇都 未佑	講義
4	2	手指屈筋・伸筋腱損傷の概要と各疾患の原因と症状	宇都 未佑	講義
5	2	手指屈筋・伸筋腱損傷の評価と治療	宇都 未佑	講義
6	2	末梢神経損傷の概要と評価方法や診断基準	宇都 未佑	講義
7	2	末梢神経損傷の各神経ごとの評価方法	宇都 未佑	講義
8	2	末梢神経損傷の治療と適応となるスプリント	宇都 未佑	講義
9	2	腱板損傷の概要と評価	宇都 未佑	講義
10	2	腱板損傷の徒手的な治療	宇都 未佑	講義

総括的評価

小テスト、定期試験の成績、ならびに講義への出席状況や受講態度を総合的に判断する。

教科書：作業療法学ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 定価5400円

参考書：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 定価7020円

その他の資料：各種文献等を参考に、担当にて資料を作成する。

担当教員から

身体機能評価については、基礎となる運動学、解剖学、生理学の理解と各疾患の原因と評価、適切な治療の選択となるため、基礎と評価、治療方法の理解が出来るように授業に努めます。

実務経験のある教員による実践的授業

整形疾患を主に診断する病院にて勤務する作業療法士が教員として授業を行う。臨床での骨折、末梢神経損傷、筋断裂など、それぞれの疾患や症状、評価のポイントなどを、事例などを通し、作業療法士として臨床経験を持つ担当教員の経験などを踏まえ実践的な見地から知識を教授する。

2年次 前期・後期(2単位:80時間)

(授業概要)

脊髄損傷について、解剖学的・運動学的観点から理解する。また、脊髄損傷者に多くみられる合併症、リスクマネジメントについても理解し、その状態と将来像をもととした訓練プログラムの立案と実施について講義する。

(教育目標)

損傷高位別の運動、感覚機能について理解し、必要な動作訓練や自助具等考えることができること、脊髄損傷の発生や経過について、解剖学、生理学、運動学的知識を基本として理解ができるようになる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	脊髄損傷とは(脊髄の構造)	日高 俊和	講義
2	2	合併症のリスクマネジメント(急性期)①	日高 俊和	講義
3	2	合併症のリスクマネジメント(急性期)②	日高 俊和	講義
4	2	合併症のリスクマネジメント(急性期～亜急性期)	日高 俊和	講義
5	2	呼吸器合併症について	日高 俊和	講義
6	2	褥瘡について	日高 俊和	講義
7	2	急性期における排尿障害	日高 俊和	講義
8	2	慢性期における排尿障害	日高 俊和	講義
9	2	排便障害について	日高 俊和	講義
10	2	自律神経機能の障害について	日高 俊和	講義
11	2	性機能障害について	日高 俊和	講義
12	2	痛み(損傷高位との関係性や程度、分類)	日高 俊和	講義
13	2	痙性と関節拘縮について①	日高 俊和	講義
14	2	痙性と関節拘縮について②	日高 俊和	講義
15	2	骨の異常(異所性骨化、骨萎縮、骨折)	日高 俊和	講義
16	2	末梢循環の合併症について	日高 俊和	講義
17	2	心理的対応(障害の評価)	日高 俊和	講義
18	2	心理的対応(障害の予後予測)	日高 俊和	講義
19	2	動作訓練(訓練プログラムの考え方)	日高 俊和	演習
20	2	動作訓練(脊髄損傷の運動学的理解)	日高 俊和	演習
21	2	動作訓練(座位姿勢 四肢麻痺・対麻痺)	日高 俊和	演習
22	2	寝返り動作訓練	日高 俊和	演習
23	2	起き上がり動作訓練	日高 俊和	演習
24	2	プッシュアップ訓練、移動動作訓練、移乗動作訓練①	日高 俊和	演習
25	2	プッシュアップ訓練、移動動作訓練、移乗動作訓練②	日高 俊和	演習
26	2	車椅子駆動、歩行訓練	日高 俊和	演習
27	2	更衣動作、入浴動作訓練	日高 俊和	演習
28	2	自動車運動や障害者スポーツについて	日高 俊和	講義
29	2	脊髄損傷者の車椅子について(種類・適応タイプ、特殊用途タイプ)	日高 俊和	講義
30	2	下肢装具と歩行用機器について	日高 俊和	講義
31	2	環境制御装置と考え方について	日高 俊和	講義
32	2	脊髄損傷者の社会復帰(援助の具体的方法)	日高 俊和	講義
33	2	脊髄損傷者の社会復帰(社会資源の活用)	日高 俊和	講義
34	2	筋力増強訓練と動作訓練①	日高 俊和	演習
35	2	筋力増強訓練と動作訓練②	日高 俊和	演習
36	2	筋力増強訓練と動作訓練③	日高 俊和	演習
37	2	損傷高位と可能な動作、訓練を要する動作 評価について①	日高 俊和	演習
38	2	損傷高位と可能な動作、訓練を要する動作 評価について②	日高 俊和	演習
39	2	脊髄損傷まとめ①	日高 俊和	講義
40	2	脊髄損傷まとめ②	日高 俊和	講義

総括的評価

筆記試験(9月・2月)の結果ならびに、講義受講態度、課題レポート等の提出状況等を総合的に判断します。

教科書：脊髄損傷リハビリテーションマニュアル 第3版

参考書：ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版

その他の資料：作業療法学ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学

担当教員から

脊髄損傷の基本的な病態や、機能残存レベルごとの動き、ADLの状況やその支援法、自助具などについて、具体的な理解がなければなりません。

実務経験のある教員による実践的授業

脊髄損傷の概要を理解し、関心と興味を持てるように臨床での経験を写真など、視覚的情報を用いる。また、症例のDVDを用い、脊髄損傷者の残存レベルでの可能動作を理解し、症例の予後予測へとつなげる。作業療法士として臨床経験を持つ担当教員が具体的な例などを示し、知識、技術を教授する。

1年次 後期(1単位:20時間)

(授業概要)

大まかな評価項目を知ること。また、評価を行う場合の基本的な注意点を理解する。

(教育目標)

①対象者を評価することの意味を知る。②評価の基本的な流れを理解する。③面接の注意点を理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	評価とは?/評価の特性と目的	長井 龍	講義
2	2	インテーク面接の意味と注意すべき点について	長井 龍	講義
3	2	試し参加と導入評価について(なぜ必要なのかを統合失調症の場合を想定して理解する。)	長井 龍	講義
4	2	初期評価について(時期・目的・注意点)/再評価について	長井 龍	講義
5	2	helpとsupportの違いについて	長井 龍	講義
6	2	これまでの生活・今の生活・これからの生活について(最も大切なこれからの生活を意識して)	長井 龍	講義
7	2	情報収集の方法/社会的背景・現病歴、治療歴・主訴など	長井 龍	講義
8	2	面接の方法について(作業を介する面接の特徴について)	長井 龍	講義
9	2	面接の方法について(作業を介する面接の特徴について)	長井 龍	講義
10	2	作業面接について(構成的作業と投影的作業の特徴と違いについて)	長井 龍	講義

総括的評価

筆記試験による

教科書: 精神障害と作業療法(山根寛 著/三輪書店)

参考書:

その他の資料:

必要に応じてプリントを配布します。

担当教員から

自分を知るほどに対象者を知ることになります。人間理解。普段から自己との対話を心がけましょう。

その他の資料:

担当教員から

実際に対象者と接したことがないので、イメージすることも難しいと思いますが、出来るだけ実際に即して共に考えていきたいと思う。学生諸氏も自分の課題としてとらえてほしい。

実務経験のある教員による実践的授業

評価とは何かを理解し、面接をするときの注意すべきポイントを作業療法士としての臨床経験を持つ担当教員が教授する。その際、実例に対して学生がどう対応するかを学生同士で検討することで、実際的なイメージを獲得していく。

2年次 前期(1単位:20時間)

(授業概要)

精神科作業療法評価法の概要を学ぶ。

(教育目標)

①『作業療法における『関与しながらの観察・面接』の意味を知る。  
ICFの分類について理解する。

②

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	関与しながらの観察・面接について学ぶ	長井 龍	講義
2	2	日常生活の持つ意味について考える(ADL障害を来すのはなぜか)	長井 龍	講義
3	2	コミュニケーションについて・統合失調症者の場合	長井 龍	講義
4	2	対人関係の持ち方について・統合失調症者の場合	長井 龍	講義
5	2	基本的な参加能力とは?／主な検査・測定の紹介	長井 龍	講義
6	2	移動と社会資源の利用について(障害者にとって、移動の障害の持つ意味とは?)	長井 龍	講義
7	2	心身機能と身体構造・活動・参加を理解する(解説編プリントを通して)	長井 龍	講義
8	2	目標による“肯定的側面・否定的側面”の分類について	長井 龍	講義
9	2	回復段階による“肯定的側面・否定的側面”の分類について	長井 龍	講義
10	2	焦点化するためのポイントについて	長井 龍	講義

総括的評価

筆記試験による

教科書： 精神障害と作業療法

参考書： 統合失調症者の作業療法の進め方(堀田英樹著／中山書店)

その他の資料：

資料プリントを配布します。(解説編プリント／片山さんのケース他)

担当教員から

評価実習に備えて、何をどのように行うかをできる限りイメージし、スムーズな実習にして欲しいと思います。

担当教員から

実際に対象者と接したことがないので、イメージすることも難しいと思いますが、出来るだけ実際に即して共に考えていきたい  
と思います。学生諸氏も自分の課題としてとらえて下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

関与しながらの観察・面接が作業療法士としての最も基本的な技術となる。そこで作業療法士としての臨床経験を持つ担当  
教員がそのコツを教授し、否定的な側面ばかりではなく、肯定的側面を作業療法の中に生かしていく視点を教授する。

2年次 前期・後期 (2単位80時間)

(授業概要)

前期: 評価実習に向けて、必要な基本的知識の理解と整理を行う  
 後期: うつ病・認知症・神経症性障害の作業療法について学ぶ。

(教育目標)

①対象者の全体像をまとめることができる。②焦点化ができる。③うつ病・認知症・神経症性障害の作業療法を理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	関与しながらの観察・面接について	長井 龍	講義
2	2	非言語的なサインの観察について	長井 龍	講義
3	2	話し方の観察・運動計の観察・自律神経系の観察について	長井 龍	講義
4	2	生活管理の障害について	長井 龍	講義
5	2	日常生活について(意味のある評価とは)	長井 龍	講義
6	2	ADL障害を来すもの 3つの原因・服薬の管理について	長井 龍	講義
7	2	注意・記憶の障害について/心理的アプローチについて	長井 龍	講義
8	2	認知障害について	長井 龍	講義
9	2	身辺処理・生活管理について	長井 龍	講義
10	2	OT評価の肯定的側面・否定的側面の分類の基準について	長井 龍	講義
11	2	リガバリーとストレングスの視点について	長井 龍	講義
12	2	各種検査・調査法についての学ぶ(LASMI/REHAB/不安と疲労のチェックリスト/入院生活チェックリスト)	長井 龍	講義
13	2	各種検査・調査法についての学ぶ(COPM/自己効力感尺度/各種山根先生のちえまリスト)	長井 龍	講義
14	2	全体像のまとめ方について	長井 龍	講義
15	2	焦点化する場合の注意点とコツ	長井 龍	講義
16	2	認知症を理解する(認知症全般について/国試問題を題材にして)	長井 龍	演習
17	2	認知症を理解する(認知症全般について/国試問題を題材にして)	長井 龍	演習
18	2	認知症を理解する(Alzheimer型認知症について/国試問題を題材にして)	長井 龍	演習
19	2	認知症を理解する(Alzheimer型認知症と血管性認知症の比較・症状の進み方の理解)	長井 龍	演習
20	2	認知症を理解する(Alzheimer型認知症の進み方について②/対応の仕方)	長井 龍	演習
21	2	認知症を理解する(認知症の作業療法について/対応の仕方その他)	長井 龍	演習
22	2	認知症を理解する(レビー小体型認知症について/国試問題を題材にして)	長井 龍	演習
23	2	認知症を理解する(前頭側頭型認知症について/国試問題を題材にして)	長井 龍	演習
24	2	うつ状態の作業療法(一般的な注意事項について)	長井 龍	講義
25	2	回復段階に応じたうつ状態の作業療法(早期の作業療法/国試問題を題材にして)	長井 龍	講義
26	2	回復段階に応じたうつ状態の作業療法(早期の作業療法②/国試問題を題材にして)	長井 龍	演習
27	2	回復段階に応じたうつ状態の作業療法(回復期前期の作業療法/国試問題を題材にして)	長井 龍	演習
28	2	回復段階に応じたうつ状態の作業療法(回復期前期の作業療法②/国試問題を題材にして)	長井 龍	演習
29	2	回復段階に応じたうつ状態の作業療法(回復期後期の作業療法/国試問題を題材にして)	長井 龍	演習
30	2	回復段階に応じたうつ状態の作業療法(回復期後期の作業療法②/国試問題を題材にして)	長井 龍	演習
31	2	うつ病者に対する就労支援のポイント	長井 龍	講義
32	2	いろいろなタイプのうつ病について	長井 龍	講義
33	2	神経症性障害(全般性不安障害・パニック障害・恐怖症性不安障害)について、疾患の特徴を理解する。	長井 龍	講義
34	2	神経症性障害(特定の恐怖症・強迫神経症・急性ストレス障害)について、疾患の特徴を理解する。	長井 龍	講義
35	2	神経症性障害(外傷後ストレス障害・適応障害)について、疾患の特徴を理解する。	長井 龍	講義
36	2	疾患の特徴を理解する。	長井 龍	講義
37	2	特徴を理解する。	長井 龍	講義
38	2	神経症性障害に対する作業療法を学ぶ①	長井 龍	講義
39	2	神経症性障害に対する作業療法を学ぶ②	長井 龍	講義
40	2	神経症性障害に対する作業療法を学ぶ③	長井 龍	講義

総括的評価

定期試験にて行います。

教科書: 必要に応じてプリントを配布

参考書: 国際生活機能分類(中央法規)

その他の資料:

担当教員から

実際に対象者と接したことがないので、イメージすることも難しいと思いますが、出来るだけ実際に即して共に考えていきたいと思えます。学生諸氏も自分の課題としてとらえて下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

各疾患の特徴を理解し、そこに作業療法士として対象者本人に対して最も適した対応の仕方を考えられるように作業療法士としての臨床経験を持つ担当教員が教授する。またその治療的かわりを、治療的自らの活用も含めて行えるように指導する。

1年次 後期(2単位: 40時間)

(授業概要)

身体機能分野の治療の基礎を学ぶ

(教育目標)

2年次の専門分野の治療学の基礎を固める

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	関節可動域訓練について	宇都 未祐	講義
2	2	筋力増強訓練について	宇都 未祐	講義
3	2	感覚改善訓練について	宇都 未祐	講義
4	2	脳卒中と頭部外傷の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
5	2	脳卒中と頭部外傷の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
6	2	脳卒中と頭部外傷の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
7	2	脊髄損傷の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
8	2	脊髄損傷の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
9	2	末梢神経損傷の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
10	2	末梢神経損傷の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
11	2	手の外科の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
12	2	手の外科の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
13	2	熱傷の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
14	2	熱傷の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
15	2	関節リウマチの作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
16	2	関節リウマチの作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
17	2	慢性中枢神経疾患の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
18	2	慢性中枢神経疾患の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
19	2	神経・筋疾患・切断の作業療法を考える。	宇都 未祐	演習
20	2	疾患別作業療法のまとめ。	宇都 未祐	講義

総括的評価

上記を踏まえた筆記試験による評価

教科書: 作業療法学ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学

参考書:

その他の資料: 適宜プリント配布

担当教員から

作業療法の治療場面の入門です 頑張って学んで行きましょう

実務経験のある教員による実践的授業

作業療法における治療の概要理解と臨床で行われている治療の実際を、作業療法士としての臨床経験を持つ担当教員が教授する。講義では基礎的な知識から、臨床での経験を活かした実践的治療についても教授する。

2年次 前期( 1単位：20時間)

(授業概要)

評価実習に向けて、神経疾患の治療評価の概略を学ぶ

(教育目標)

神経疾患の評価アセスメント治療計画の立案ができるようになります

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	神経疾患総論①	黒木 辰朗	講義
2	2	神経疾患各論 パーキンソン病	黒木 辰朗	講義
3	2	神経疾患総論 ALSなど	黒木 辰朗	講義
4	2	神経疾患の評価①心身機能身体構造	黒木 辰朗	講義
5	2	神経疾患の評価②活動	黒木 辰朗	講義
6	2	神経疾患の評価③参加	黒木 辰朗	講義
7	2	神経疾患の評価④まとめ	黒木 辰朗	講義
8	2	神経疾患の治療①心身機能身体構造1	黒木 辰朗	講義
9	2	神経疾患の治療①心身機能身体構造2	黒木 辰朗	講義
10	2	神経疾患の治療②ADL場面	黒木 辰朗	講義

総括的評価

出席(10%)・試験(70%)・レポート(20%)で評価する

教科書：作業療法ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学

参考書：

その他の資料：適宜プリントを配布します

担当教員から

臨床でよく目にする疾患です 興味を持って積極的に取り組んで行って下さい

実務経験のある教員による実践的授業

神経難病に対する作業療法の概要理解と主に臨床で行われている評価の実際を、作業療法士としての臨床経験を持つ担当教員が教授する。講義では基礎的な知識から、臨床での経験を活かした事例紹介を通じた実践的評価治療についても教授する。



授業科目名: 身体機能治療学実習

担当教員: 日高 俊和

2年次 前期・後期(2単位: 80時間)

(授業概要)

・脳血管障害、頭部外傷、疾患に適切な評価、治療、ADL介入の説明と演習。  
・運動を行う際の神経系、運動系のメカニズム。

(教育目標)

・脳血管障害、頭部外傷の特性と各疾患に適切な評価、治療、ADL介入の理解を深める。  
・運動を行う際の神経系、運動系のメカニズムの理解を深める。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	脳血管障害とは	日高 俊和	講義
2	2	脳血管障害の症候とは(意識障害、運動麻痺・筋緊張の異常、腱反射の異常)	日高 俊和	演習
3	2	脳血管障害の症候とは(知覚障害、脳神経障害、姿勢反射障害)	日高 俊和	演習
4	2	脳血管障害の症候とは(高次脳機能障害、その他の症状)	日高 俊和	演習
5	2	脳血管障害の医学的治療・脳血管障害のリハビリテーションとは	日高 俊和	演習
6	2	脳血管障害の作業療法とは(意識障害)	日高 俊和	演習
7	2	脳血管障害の作業療法とは(運動障害)	日高 俊和	演習
8	2	脳血管障害の作業療法とは(筋緊張)	日高 俊和	演習
9	2	脳血管障害の作業療法とは(知覚障害)	日高 俊和	演習
10	2	脳血管障害の作業療法とは(脳神経障害)	日高 俊和	演習
11	2	脳血管障害の作業療法とは(姿勢反射障害)	日高 俊和	演習
12	2	脳血管障害の作業療法とは(上肢機能障害)	日高 俊和	演習
13	2	脳血管障害の作業療法とは(高次脳機能障害)	日高 俊和	演習
14	2	脳血管障害の作業療法とは(日常生活活動)	日高 俊和	演習
15	2	脳血管障害の作業療法とは(生活関連活動)	日高 俊和	演習
16	2	脳血管障害の各期の作業療法: 急性期	日高 俊和	講義
17	2	脳血管障害の各期の作業療法: 回復期・維持期	日高 俊和	講義
18	2	頭部外傷とは	日高 俊和	講義
19	2	頭部外傷の評価(画像・動作)	日高 俊和	講義
20	2	頭部外傷の臨床像	日高 俊和	講義
21	2	姿勢制御とは	日高 俊和	講義
22	2	姿勢制御に関する感覚	日高 俊和	講義
23	2	姿勢制御(予測的姿勢制御、アライメント)	日高 俊和	講義
24	2	姿勢制御(脳生理システム)	日高 俊和	講義
25	2	姿勢制御に関する筋	日高 俊和	講義
26	2	大脳基底核	日高 俊和	講義
27	2	正常なリーチ、把握、物品操作	日高 俊和	講義
28	2	上肢のリーチと把握、操作の要素	日高 俊和	講義
29	2	目―頭―体幹協調	日高 俊和	講義
30	2	リーチと把握に関与する系	日高 俊和	講義
31	2	リーチの感覚系	日高 俊和	講義
32	2	リーチの運動系	日高 俊和	講義
33	2	関節可動域練習①	日高 俊和	演習
34	2	関節可動域練習②	日高 俊和	演習
35	2	伸張法①	日高 俊和	演習
36	2	伸張法②	日高 俊和	演習
37	2	筋力増強練習①	日高 俊和	演習
38	2	筋力増強練習②	日高 俊和	演習
39	2	姿勢・動作分析①	日高 俊和	演習
40	2	姿勢・動作分析②	日高 俊和	演習

総括的評価

上記の内容を踏まえた筆記試験による評価

教科書: 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト4 身体障害作業療法学

参考書: モーターコントロール 原著第3版  
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第4版

その他の資料:

担当教員から

脳血管障害・頭部外傷の特徴をとらえた評価治療、また、姿勢制御の観点も評価・治療に必要となります。

実務経験のある教員による実践的授業

脳血管の損傷、梗塞による循環障害、血腫による圧迫などによる症状や、大脳皮質の局在理解による症状診断など、作業療法士としての臨床経験を踏まえた知識を教授する。また、事例紹介など具体的な例を示し実践的な見地からの知識も教授する。

1 年次 後期(2 単位:40 時間)

(授業概要)

・精神科作業療法の概念および実践方法の概要を理解する。  
 ・精神機能作業療法の実践に必要な接近態度について学習する。

(教育目標)

・精神機能作業療法学の基礎について学び、対象者の理解と実践方法を一般的枠組みを踏まえて学習する。  
 加えて作業療法の可能性、自分自身を見つめなおし、洞察することで作業療法士として成長していく過程を学ぶ。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	身体障害と比較することで精神障害をとらえる。また、症状の意味することを考える。	俵積田大志	講義
2	2	各回復段階における病状と、そのリハビリテーションゴール・精神科作業療法の目的について	俵積田大志	講義
3	2	主体性を回復するためにはどうしたらいいのか学び、私らしさについて考える。	俵積田大志	講義
4	2	主体としての対象者、作業、セラピスト、他メンバー、集団、時間について学ぶ。	俵積田大志	講義
5	2	亜急性期の病態について理解し、そのアプローチ(パラレルな場、作業への閉じこもり)につ	俵積田大志	講義
6	2	亜急性期にて提供するプログラムについて学ぶ。	俵積田大志	講義
7	2	回復期前期の病態について理解し、そのアプローチ(心身機能の回復、現実への移行)につ	俵積田大志	講義
8	2	回復期前期にて提供するプログラムについて学ぶ。	俵積田大志	講義
9	2	回復期後期の病態について理解し、そのアプローチ(自律と適応の援助)について学ぶ。	俵積田大志	講義
10	2	必要な時間/行程数と順序/必要な知識、技術の有無	俵積田大志	講義
11	2	運動機能/感覚・知覚・認知機能/素材	俵積田大志	講義
12	2	表現の自由度/結果の形/作業活動や結果の意味	俵積田大志	講義
13	2	作業にともなう距離/対人交流/作業にともなうコミュニケーション	俵積田大志	講義
14	2	基本的機能の回復/生活技能の習得、就労準備/よりよい体験として	俵積田大志	講義
15	2	刺激からの保護と鎮静/攻撃衝動の適応的発散/退行欲求の充足	俵積田大志	講義
16	2	身体自我の回復・確立/依存欲求の充足/行為の具現化	俵積田大志	講義
17	2	集団への所属体験/現実検討/社会的対人距離の体験	俵積田大志	講義
18	2	自我の成長の援助/コミュニケーションの手段	俵積田大志	講義
19	2	治療の道具としての自分について考える。	俵積田大志	講義
20	2	回復の意味、リカバリー概念について学ぶ。	俵積田大志	講義

総括的評価

上記の内容を踏まえた筆記試験による評価

教科書：精神障害と作業療法～治る・治すから生きるへ～第3版 山根 寛 三輪書店

参考書：精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版 中央法規

その他の資料：

担当教員から

まず、作業とはなにか。作業がどのように作用して、どのように影響があるのか。精神医学の基礎をベースに、なぜこの治療をする必要があるのか。治療過程の回復段階を理解するとともに、集団や個々のもつ力を考えていく。

実務経験のある教員による実践的授業

作業療法士として臨床経験で学んだ現場での作業療法活動の流れや、患者様の各々の特徴・治療方法を教授する。

1年次 前期(1単位：20時間)

(授業概要)

- ・集団の意味、構造因子や集団療法など、集団について学ぶ。
- ・連携—チームアプローチについて理解する。

(教育目標)

- ・1年次の精神機能作業療法学の基礎に加えて、集団の治療的力学、各疾患別の対象者の理解と実践方法を各疾患別で各々の一般的枠組みを踏まえて学習する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	集団・場—集まり、集めることの利用	肝付 宏人	講義
2	2	集団の構造因子	肝付 宏人	講義
3	2	ひとの集まりの利用	肝付 宏人	講義
4	2	対人関係—治療・援助における関係	肝付 宏人	講義
5	2	形態—システムという視点(個人・集団作業療法)	肝付 宏人	講義
6	2	システムプログラム	肝付 宏人	講義
7	2	連携—チームアプローチ	肝付 宏人	講義
8	2	作業療法の治療機序	肝付 宏人	講義
9	2	症例課題	肝付 宏人	講義
10	2	症例課題	肝付 宏人	講義

総括的評価

上記を踏まえた筆記試験による評価

教科書：教科書：精神障害と作業療法～治る・治すから生きるへ～第3版 山根 寛 三輪書店

参考書：

その他の資料：

担当教員から

集団がどのように個々に影響を及ぼすか、学生にとって身近なものであるが、それを説明する方もなかなか難しかった。1年次に経験した基礎作業の経験を例えながら講義していくと理解を示す。実際の経験を交えて、いろいろな方向から伝えていかなければならないと反省した。

実務経験のある教員による実践的授業

作業療法士として臨床経験で学んだ現場での作業療法活動の流れや、患者様の各々の特徴・治療方法を教授する。

授業科目名: 精神機能治療学実習

担当教員: 肝付 宏人

2年次 前・後期(2単位:80時間)

(授業概要)

統合失調症・気分障害・アルコール依存症・てんかん・認知症・小児の作業療法について学ぶ。

(教育目標)

・各々の疾患における作業療法について、どのような介入方法があるか、禁忌事項があるかなど学ぶ。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	統合失調症の作業療法①	肝付 宏人	講義
2	2	統合失調症の作業療法②	肝付 宏人	講義
3	2	統合失調症の作業療法③	肝付 宏人	講義
4	2	統合失調症の作業療法④	肝付 宏人	講義
5	2	統合失調症の作業療法⑤	肝付 宏人	講義
6	2	統合失調症の作業療法⑥	肝付 宏人	演習
7	2	統合失調症の作業療法⑦	肝付 宏人	演習
8	2	気分障害の作業療法①	肝付 宏人	講義
9	2	気分障害の作業療法②	肝付 宏人	講義
10	2	気分障害の作業療法③	肝付 宏人	演習
11	2	アルコール依存症の作業療法①	肝付 宏人	講義
12	2	アルコール依存症の作業療法②	肝付 宏人	講義
13	2	アルコール依存症の作業療法③	肝付 宏人	演習
14	2	てんかんの作業療法①	肝付 宏人	講義
15	2	てんかんの作業療法②	肝付 宏人	講義
16	2	てんかんの作業療法③	肝付 宏人	演習
17	2	認知症の作業療法①	肝付 宏人	講義
18	2	認知症の作業療法②	肝付 宏人	講義
19	2	認知症の作業療法③	肝付 宏人	講義
20	2	認知症の作業療法④	肝付 宏人	演習
21	2	認知症の作業療法⑤	肝付 宏人	演習
22	2	人格障害の作業療法①	肝付 宏人	講義
23	2	人格障害の作業療法②	肝付 宏人	演習
24	2	摂食障害の作業療法①	肝付 宏人	講義
25	2	摂食障害の作業療法②	肝付 宏人	演習
26	2	小児精神障害の作業療法・広範性発達障害(アスペルガー症候群・自閉症性障害等)	肝付 宏人	講義
27	2	小児精神障害の作業療法・注意欠陥多動性障害について	肝付 宏人	講義
28	2	小児精神障害の作業療法・学習障害について	肝付 宏人	講義
29	2	心理療法について(フロイトなどの洞察療法について)①	肝付 宏人	講義
30	2	心理療法について(フロイトなどの洞察療法について)②	肝付 宏人	講義
31	2	心理療法について(森田療法などの訓練療法について)①	肝付 宏人	講義
32	2	心理療法について(森田療法などの訓練療法について)②	肝付 宏人	講義
33	2	心理療法について(系統的脱感作療法などの行動療法について)①	肝付 宏人	講義
34	2	心理療法について(系統的脱感作療法などの行動療法について)②	肝付 宏人	講義
35	2	心理療法について(系統的脱感作療法などの行動療法について)③	肝付 宏人	講義
36	2	障害者総合支援法と就労支援	肝付 宏人	講義
37	2	医療観察制度について	肝付 宏人	講義
38	2	まとめ/国試問題力試し①	肝付 宏人	演習
39	2	まとめ/国試問題力試し②	肝付 宏人	演習
40	2	解答と解説	肝付 宏人	講義

総括的評価

上記を踏まえたレポート課題

教科書: 精神障害と作業療法～治る・治すから生きるへ～第3版 山根 寛 三輪書店

参考書:

その他の資料:

担当教員から

各疾患の精神作業療法治療学は、学生は興味を持って勉強していた印象でした。今後はより実践を踏まえた内容を取り込んで授業を進めていきたい。

実務経験のある教員による実践的授業

作業療法士としての臨床経験を持つ担当教員が、統合失調症等ほかの疾患における作業療法を、実例を挙げながら説明することで、具体的なイメージを獲得しながら、自分ならどう考えアプローチするかを学生同士で議論しながら理解できるように指導する。

2年次 前期・後期（2単位：40時間）

（授業概要）

前期：姿勢反射・反応とは何か、運動の発達についてその仕組みや働きを講義する。  
後期：異常を判断するための正常発達の理解、身体的のみならず認知機能の発達としての広範性発達障害、学習障害について理解する。さらに、筋ジストロフィー症についても各種タイプの理解をすすめ、作業療法としての具体的な介入方法について学ぶ。

（教育目標）

前期：姿勢反射・反応について、月齢ごとに理解すること、その役割について理解することを目的とする。その反射を基本に、身体機能の発達との関連性についても理解する。  
後期：正常発達について、月齢に沿った状態の理解ができる。広範性発達障害については、状態像の理解に加え、適切な介入方法、社会との協力体制の構築といった具体的な事項についても理解し、それらをもとに作業療法的治療法について理解する。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	歴史、作業療法の役割、発達障害とは何かを講義	渡 裕一	講義
2	2	発達の定義、中枢神経系の発達、系統発生を講義	渡 裕一	講義
3	2	発達の原則を講義	渡 裕一	講義
4	2	姿勢反射・反応（定義、意義、メカニズム）を講義	渡 裕一	講義
5	2	姿勢反射・反応（静的姿勢反射・反応群：原始反射）を講義	渡 裕一	講義
7	2	姿勢反射・反応（静的姿勢反射・反応群：原始反射）を講義	渡 裕一	講義
10	2	姿勢反射・反応（立ち直り反応）を講義	渡 裕一	講義
11	2	姿勢反射・反応（平衡運動反応、平衡反応）を講義	渡 裕一	講義
13	2	粗大運動の発達と反射・反応を講義	渡 裕一	講義
14	2	粗大運動の発達と反射・反応を講義	渡 裕一	講義
16	2	正常発達	渡 裕一	講義
17	2	正常発達	渡 裕一	講義
18	2	正常発達	渡 裕一	講義
21	2	広範性発達障害	渡 裕一	講義
22	2	広範性発達障害	渡 裕一	講義
24	2	学習障害	渡 裕一	講義
25	2	筋ジストロフィー	渡 裕一	講義
26	2	筋ジストロフィー	渡 裕一	講義
27	2	治療学各論	渡 裕一	講義
28	2	治療学各論	渡 裕一	講義

総括的評価

前期：筆記試験（9月・2月）の結果ならびに、講義受講態度など総合的に判断する。

教科書：

作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学  
運動発達と反射 理学療法・作業療法のための神経生理学プログラム演習

参考書：

発達からみた脳性運動障害の治療

その他の資料：

乳幼児の運動発達検査 AIMSアルバータ乳幼児発達検査法

担当教員から

前期：発達の障害について、身体的・知的側面から理解する。そのためにも、正常な機能や能力を再学習し、相違点の把握や分析できる専門的能力の向上を図る。  
後期：発達の障害について、身体的・知的側面から理解する。そのためにも、正常な機能や能力を再学習し、相違点の把握や分析できる専門的能力の向上を図る。

実務経験のある教員による実践的授業

作業療法士としての臨床経験を持つ担当教員が、発達障害における作業療法を、実例を挙げながら説明することで、具体的なイメージを獲得しながら、自分ならどう考えアプローチするかを学生同士で議論しながら理解できるように指導する。

2年次 前期・後期( 1単位： 30時間)

(授業概要)

身体機能、認知機能の発達について、その内容を理解し、適切な評価について学ぶ。また、発達に何らかの障害を有する者に対し、作業療法としての具体的な介入方法について講義する。

(教育目標)

適切な検査の実施とその解釈、各発達の障害について、状態を解釈できること、加えて具体的な介入方法を立案し、実施することができるようになる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	姿勢反射・反応の評価と観察	渡 裕一	講義
2	2	姿勢反射・反応の評価と観察	渡 裕一	講義
3	2	自閉症、知的障害に対する評価と作業療法	渡 裕一	講義
4	2	学習障害に対する評価と作業療法	渡 裕一	講義
5	2	進行性筋ジストロフィー症に対する評価と作業療法	渡 裕一	講義
6	2	脳性麻痺児に対する作業療法評価と作業療法	渡 裕一	講義
7	2	脳性麻痺児に対する作業療法評価と作業療法～日常生活動作・食事指導の基本的考え方～	渡 裕一	講義
8	2	脳性麻痺児に対する作業療法評価と作業療法～ポジショニングとシーティングの基本的考え方～	渡 裕一	講義
9	2	知的障害・自閉症・学習障害に対する作業療法評価とOTアプローチの実際	渡 裕一	講義
10	2	知的障害・自閉症・学習障害に対する作業療法評価とOTアプローチの実際	渡 裕一	講義
11	2	脳性麻痺・重度心身障害児に対する作業療法評価とOTアプローチの実際	渡 裕一	講義
12	2	脳性麻痺・重度心身障害児に対する作業療法評価とOTアプローチの実際	渡 裕一	講義
13	2	脳性麻痺・重度心身障害児に対する作業療法評価とOTアプローチの実際	渡 裕一	講義
14	2	脳性麻痺・重度心身障害児に対する作業療法評価とOTアプローチの実際	渡 裕一	講義
15	2	脳性麻痺・重度心身障害児に対する作業療法評価とOTアプローチの実際	渡 裕一	講義

総括的評価

筆記試験(9月・2月)の結果ならびに、講義受講中の態度や課題レポート等の提出状況などより総合的に判断する。

教科書:

作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学  
運動発達と反射 理学療法・作業療法のための神経生理学プログラム演習

参考書:

発達からみた脳性運動障害の治療

その他の資料:

乳幼児の運動発達検査 AIMSアルバータ乳幼児発達検査法

担当教員から

発達に障害を有する症例に対し、その具体的な介入方法などを実技を通し理解することを目標とします。

実務経験のある教員による実践的授業

作業療法士としての臨床経験を持つ担当教員が、発達障害における作業療法を、実例を挙げながら説明することで、具体的なイメージを獲得しながら、自分ならどう考えアプローチするかを学生同士で議論しながら理解できるように指導する。

2年次 前期・後期( 3単位: 60時間)

(授業概要)

前期: 高齢化社会であることを理解し作業療法士に求められる仕事内容や関係法規を理解する。  
後期: 地域で行われているリハビリ活動やサービスを知り作業療法士の地域での役割と治療について検討する。

(教育目標)

前期: ・介護保険制度について説明できる ・求められる作業療法士がイメージでき、高齢期の患者さんへの対応を知る。  
後期: ・なぜ高齢者特有の行動や症状があるのか考える ・高齢者の特徴に合わせて継続的なリハビリは可能なのか考え説明できる

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	高齢期とは、高齢期の心理的变化	谷口 慶子	講義
2	2	高齢期医療の役割、求められる作業療法士とは	谷口 慶子	講義
3	2	加齢に伴う身体的・精神的変化についてまとめる	谷口 慶子	演習
4	2	加齢に伴う身体的・精神的変化についてまとめる	谷口 慶子	演習
5	2	高齢期に伴う身体的・精神的変化について 発表	谷口 慶子	演習
6	2	高齢期に伴う身体的・精神的変化について 発表	谷口 慶子	演習
7	2	高齢期に伴う身体的・精神的変化について 発表	谷口 慶子	演習
8	2	FIM Barthel Indexを知る 理解する	谷口 慶子	演習
9	2	FIMをADLで具体的に考える	谷口 慶子	演習
10	2	高齢期の特徴的な疾患について 発表	谷口 慶子	講義
11	2	高齢期の特徴的な疾患について 発表	谷口 慶子	講義
12	2	高齢期の特徴的な疾患について 発表	谷口 慶子	講義
13	2	認知症の評価 ユマニチュード	谷口 慶子	講義
14	2	ユマニチュードを知る	谷口 慶子	講義
15	2	MTDLPIについて概要を知る	谷口 慶子	講義
16	2	安全な移乗動作と車椅子の分解・組み立てについて体験する	谷口 慶子	演習
17	2	家屋改修について 体験	谷口 慶子	演習
18	2	褥瘡予防の福祉用具 自助具について	谷口 慶子	演習
19	2	過去問題から事例問題を理解する	谷口 慶子	演習
20	2	過去問題から事例問題を理解する	谷口 慶子	講義
21	2	過去問題から事例問題を理解する	谷口 慶子	講義
22	2	高齢者向きレクリエーションを知る・考案する	谷口 慶子	講義
23	2	高齢者向きレクリエーションを知る・実施する	谷口 慶子	演習
24	2	高齢者向きレクリエーションを知る・実施する	谷口 慶子	演習
25	2	介護保険の16特定疾患について理解する	谷口 慶子	講義
26	2	通所リハビリテーションの空間を考える 安全面・意欲面・作業活動・概観の点で考案	谷口 慶子	講義
27	2	居宅サービス・施設の特徴について	谷口 慶子	講義
28	2	自助具の紹介 体験 立案	谷口 慶子	講義
29	2	自助具の紹介 作製する	谷口 慶子	講義
30	2	自助具の紹介 作製する 発表	谷口 慶子	講義

総括的評価

前期: 筆記試験で6割を合格とする  
後期: 作品の提出 レポート提出 考えたことをまとめ発表

教科書: 高齢期作業療法

参考書: 高齢期作業療法 老年学

その他の資料:

担当教員から

学生はなかなか高齢者への興味を持ちにくい印象がある。マイナスイメージを変えられるように特徴的な行動を理由を挙げて説明してみた。  
覚えてはくれるが、なんで?となるまでなかなか反応を引き出せずもっと事例を通した紹介ができるように努めたい。

実務経験のある教員による実践的授業

臨床経験のある作業療法士がアプローチの組み立てで疾患に固執せず環境に視野の幅が広がるよう促していく。核家族が増えるなかで高齢者を知る機会も減っているように思う。心理的・身体的な変化について理解を深めたいうえで社会的なサービス高齢者を取り巻く環境などを考える。

2年次 前期・後期(3単位: 60時間)

(授業概要)

高次神経障害に関して、治療法など実技・講義を通して学ぶ。

(教育目標)

高次神経障害に関して、その症状などを理解し、適切な治療法を考えることができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	高次神経機能(障害)の特徴、評価の進め方、スクリーニング検査の講義	黒木 辰朗	講義
2	2	意識障害の定量的評価、脳波・神経所見、障害像、意識-注意ネットワーク、意識障害のリハビリテーションの意義	黒木 辰朗	講義
3	2	知的機能障害の特徴、診断(HDS-R、MMSE、WAIS-R)の講義・実技	黒木 辰朗	演習
4	2	コース立方体組み合わせテスト、Reven色彩マトリックス検査の講義・実技	黒木 辰朗	演習
5	2	注意の概念、関連臨床症状、注意の特性・検査の講義	黒木 辰朗	講義
6	2	Pacing障害、注意障害のリハビリテーションの講義	黒木 辰朗	講義
7	2	総論(空間認知とその障害)、各論(空間認知障害)、空間認知障害のリハビリテーションの講義・実技	黒木 辰朗	演習
8	2	視覚認知障害と物体・画像認知、色彩認知、相貌認知の講義	黒木 辰朗	講義
9	2	アントン症状群、ウェルニッケ失語、左片麻痺否認、右半球症状、疾病失認の発現機序の講義	黒木 辰朗	講義
10	2	聴覚:症候、評価法、リハビリテーション 触覚:触覚認知、触覚失語、触覚失行の講義	黒木 辰朗	講義
11	2	学習のメカニズム(言語の学習、概念の学習、運動の学習)の講義	黒木 辰朗	講義
12	2	記憶システム(作動記憶、エピソード記憶、意味記憶、手続き記憶)の講義	黒木 辰朗	講義
13	2	記憶システム(システム間の関係)ー知覚プライミング、陳述・非陳述記憶、顕在記憶と潜在記憶の講義	黒木 辰朗	講義
14	2	LTM障害・STM障害・健忘症候群(近時記憶・遠隔記憶障害、その他の症候、精神疾患に関連した記憶障害)の検査法、症例・症候を講義	黒木 辰朗	講義
15	2	知識・領域特異性・意味記憶障害・手続き記憶障害(評価・病態・神経基盤)の講義	黒木 辰朗	講義
16	2	行為障害(失行症、構成障害、前頭葉性動作障害)	黒木 辰朗	講義
17	2	遂行機能	黒木 辰朗	講義
18	2	遂行機能	黒木 辰朗	講義
19	2	病変部位における神経心理学①	黒木 辰朗	講義
20	2	病変部位における神経心理学②	黒木 辰朗	講義
21	2	血管支配における神経心理学①	黒木 辰朗	講義
22	2	血管支配における神経心理学②	黒木 辰朗	講義
23	2	各種テストバッテリー実線	黒木 辰朗	講義
24	2	各種テストバッテリー実線	黒木 辰朗	講義
25	2	各種テストバッテリー実線	黒木 辰朗	講義
26	2	その他関連症状	黒木 辰朗	講義
27	2	グループ研究	黒木 辰朗	演習
28	2	グループ研究	黒木 辰朗	演習
29	2	神経心理学的リハビリテーション	黒木 辰朗	講義
30	2	認知リハビリテーション	黒木 辰朗	講義

総括的評価

レポート(30%)、定期試験(70%)で評価します

教科書: 高次脳機能障害学

参考書:

その他の資料: 適宜プリントを配布します

担当教員から

分つてくると面白い分野です 頑張らしましょう

実務経験のある教員による実践的授業

高次脳機能障害に対する作業療法の概要理解と臨床で行われている評価治療の実際を、作業療法士としての臨床経験を持つ担当教員が教授する。講義では基礎的な知識から、臨床での経験を活かした事例紹介を通した実践的治療についても教授する。



2年次 前期(2単位:40時間)

(授業概要)

・義肢とは何か、定義を学び、知識と技術を概説的に学ぶ。  
 ・装具とは何かを言葉の成り立ちから学び、四肢・体幹の様々な装具を理解できるようにする。

(教育目標)

・義肢装具の役割を説明でき、使用者に対する作業療法の理念と役割と理解する。  
 ・下肢装具、体幹装具、上肢装具の目的を理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	義肢装具学概論	日高 俊和	講義
2	2	義肢の歴史、切断の原因、切断部位(上肢)	日高 俊和	講義
3	2	切断部位(下肢)、特殊な切断、義手、下肢切断と義足	日高 俊和	講義
4	2	作業療法士に必要な義手各論① 義手構成要素	日高 俊和	講義
5	2	作業療法士に必要な義手各論② 義手構成要素	日高 俊和	講義
6	2	作業療法士に必要な義手各論③ 義手構成要素	日高 俊和	講義
7	2	義手の訓練① 義手装着前訓練	日高 俊和	講義
8	2	義手の訓練② 義手装着訓練	日高 俊和	講義
9	2	義手の訓練③ 前腕義手チェックアウト	日高 俊和	講義
10	2	義手の訓練④ 上腕義手チェックアウト	日高 俊和	講義
11	2	装具総論 はじめに、装具とは	日高 俊和	講義
12	2	装具の歴史	日高 俊和	講義
13	2	下肢装具総論	日高 俊和	講義
14	2	体幹装具総論	日高 俊和	講義
15	2	上肢装具総論 ① 上肢装具分類	日高 俊和	講義
16	2	上肢装具総論 ② 上肢装具分類	日高 俊和	講義
17	2	上肢装具・スプリントの作成	日高 俊和	講義
18	2	上肢装具・スプリントののチェックアウト・スプリントセラピー	日高 俊和	講義
19	2	スプリント作成実習①	日高 俊和	演習
20	2	スプリント作成実習②	日高 俊和	演習

総括的評価

上記の内容を踏まえた筆記試験による評価

教科書: 作業療法学全書 義肢装具学

参考書: 義肢装具と作業療法 評価から実践まで  
 義肢装具学

その他の資料: 写真で見る 基本スプリントの作り方

担当教員から

関心を持って義肢装具の知識やスプリント作成の演習に臨んで下さい

実務経験のある教員による実践的授業

上肢欠損による、上肢装具の適応や末梢神経損傷などによる神経麻痺のスプリント適応。また、上肢装具やスプリントのメンテナンスなど、パーツの名称、構造の理解を促す。作業療法士の臨床経験をもとに実践的な見地からの知識も教授する。

授業科目名：日常生活活動

担当教員：宇都 未佑

2年次 後期(1単位:20時間)

(授業概要)

日常生活動作を作業療法士としての視点から学び、日常生活活動制限の原因の理解と治療方法について理解する。

(教育目標)

日常生活活動とは、なにかを具体的に理解する。  
日常生活活動で制限因子となる問題点や動作分析など細分化して評価できるようになる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	リウマチの概要と基礎	宇都 未佑	講義
2	2	リウマチの評価と治療	宇都 未佑	講義
3	2	リウマチ患者の日常生活活動での注意・禁忌事項	宇都 未佑	講義
4	2	上肢切断の概要と義肢について。断端部の包帯の巻き方	宇都 未佑	講義
5	2	上肢切断者の義肢の装着と操作方法。義肢での日常活動動作方法	宇都 未佑	講義
6	2	上肢切断者の義肢装着での日常活動動作方法と工夫点	宇都 未佑	講義
7	2	熱傷の評価と治療	宇都 未佑	講義
8	2	熱傷患者の日常生活活動の制限と注意・禁忌事項	宇都 未佑	講義
9	2	頸椎症の概要と基礎	宇都 未佑	講義
10	2	頸椎症患者の日常生活活動の制限と注意・禁忌事項	宇都 未佑	講義

総括的評価

小テスト、定期試験の成績、ならびに講義への出席状況や受講態度を総合的に判断する。

教科書：作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害 作業療法学 定価5400円  
標準整形外科学 第13版 定価9400円

参考書：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション

その他の資料：各種文献等を参考に、担当にて資料を作成する。

担当教員から

作業療法士として日常生活活動についての理解がないと治療者としての評価やゴール設定や治療方法などの考察できないため、症例紹介などを通じて、具体的に伝え理解してもらいたい。また、日常生活活動について細分化する視点をもってもらいたい。

実務経験のある教員による実践的授業

整形疾患を主に診断する病院にて勤務する作業療法士が教員として授業を行う。臨床でのリウマチ患者の症状、評価のポイントなどを、事例などを通し、作業療法士として臨床経験を持つ担当教員が経験などを踏まえ実践的な見地から知識を教授する。

授業科目名: 日常生活活動実習

担当教員: 黒木 辰朗

2年次 後期( 1単位: 40時間)

(授業概要)

神経疾患の作業療法の実際について学んでいきます

(教育目標)

臨床実習に向けて、資格者のアドバイスサポートのもと、治療計画の立案実施が出来るようになります

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	神経疾患の評価①心身機能身体構造	黒木辰朗	講義
2	2	神経疾患の評価②活動	黒木辰朗	講義
3	2	神経疾患の評価③参加	黒木辰朗	講義
4	2	神経疾患の評価④まとめ	黒木辰朗	講義
5	2	神経疾患の治療①心身機能身体構造1	黒木辰朗	講義
6	2	神経疾患の治療②心身機能身体構造2	黒木辰朗	講義
7	2	神経疾患の治療③ADL場面	黒木辰朗	講義
8	2	神経疾患の治療④アクティビティの活用	黒木辰朗	演習
9	2	神経疾患の治療⑤アクティビティの活用	黒木辰朗	演習
10	2	神経疾患の治療⑥アクティビティの活用	黒木辰朗	演習
11	2	神経疾患の治療⑦自宅でできるリハ 音楽を使って	黒木辰朗	演習
12	2	神経疾患の治療⑧自宅でできるリハ 音楽を使って	黒木辰朗	演習
13	2	神経疾患の治療⑨自宅でできるリハ 棒体操	黒木辰朗	演習
14	2	神経疾患の治療⑩自宅でできるリハ 重症度を考慮して	黒木辰朗	演習
15	2	神経疾患の治療⑪家屋改修1	黒木辰朗	講義
16	2	神経疾患の治療⑫家屋改修2	黒木辰朗	講義
17	2	神経疾患の治療⑬介護保険1	黒木辰朗	講義
18	2	神経疾患の治療⑭介護保険2	黒木辰朗	講義
19	2	まとめ1	黒木辰朗	講義
20	2	まとめ2	黒木辰朗	講義

総括的評価

出席(10%)・試験(70%)・レポート(20%)で評価する

教科書: 作業療法ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学

参考書: レクリエーション 改訂第2版

その他の資料: プリントを配布します

担当教員から

神経疾患の作業療法の実際について学んでいきます 環境に当事者にどのように働き掛けて行けるか、一生懸命考えていきましょう

実務経験のある教員による実践的授業

神経難病に対する評価治療の実際を、作業療法士としての臨床経験を持つ担当教員が教授する。講義では主にICFに基づいた評価治療の進め方や、臨床での経験を活かした事例紹介を通じた実践的治療について教授する。

2年次 後期( 1単位:30時間)

(授業概要)

・作業療法士が在宅での生活を必要とする方への関連法規や関連する仕事を理解する

(教育目標)

・住宅改修のポイントや必要性を理解する  
 ・関連法規を知り説明ができる

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	福祉用について	山下 孔明	講義
2	2	機器活用の実際	山下 孔明	講義
3	2	機器活用の実際	山下 孔明	講義
4	2	自助具の概念と設計	山下 孔明	講義
5	2	住宅改修 事例	山下 孔明	講義
6	2	住宅改修 事例	山下 孔明	講義
7	2	住宅改修 事例	山下 孔明	講義
8	2	介護保険	山下 孔明	講義
9	2	障害者自立支援法	山下 孔明	講義
10	2	身体障害者福祉法	山下 孔明	講義
11	2	障害等級について	山下 孔明	講義
12	2	地域リハビリテーションについて	山下 孔明	講義
13	2	住宅改修国家試験	山下 孔明	講義
14	2	住宅改修国家試験	山下 孔明	講義
15	2	転倒と住宅改修	山下 孔明	講義

総括的評価

レポート、定期試験にて評価します。

教科書：作業療法学ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学

参考書：ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版

その他の資料：講師作成による資料数点

担当教員から

就職してから必要な知識として学生は興味を持ちやすいらしく、資格も取得したいとの意見が多く聞かれた。

実務経験のある教員による実践的授業

通所リハビリ・訪問リハビリを運営する病院に勤務する作業療法士が教員として授業を行う。通所リハビリ・訪問リハビリで行う住宅改修や福祉機器導入など具体的な症例を通し、作業療法士として臨床経験を持つ担当教員の経験などを踏まえ実践的な見地から知識を教授する。

授業科目名: 総合特論 I

担当教員: 黒木 日高  
宇都 谷口 長井

3年次 後期(4単位: 80時間)

(授業概要)

国家試験の専門基礎分野の再学習

(教育目標)

国家試験で問われるレベルのしっかりした知識の獲得

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	国家試験の過去問題をベースにした解剖学の再学習1	日高 俊和	演習
2	2	国家試験の過去問題をベースにした解剖学の再学習2	日高 俊和	演習
3	2	国家試験の過去問題をベースにした解剖学の再学習3	日高 俊和	演習
4	2	国家試験の過去問題をベースにした解剖学の再学習4	日高 俊和	演習
5	2	国家試験の過去問題をベースにした解剖学の再学習5	日高 俊和	演習
6	2	国家試験の過去問題をベースにした生理学・病理学の再学習1	日高 俊和	演習
7	2	国家試験の過去問題をベースにした生理学・病理学の再学習2	日高 俊和	演習
8	2	国家試験の過去問題をベースにした生理学・病理学の再学習3	日高 俊和	演習
9	2	国家試験の過去問題をベースにした生理学・病理学の再学習4	日高 俊和	演習
10	2	国家試験の過去問題をベースにした生理学・病理学の再学習5	日高 俊和	演習
11	2	国家試験の過去問題をベースにした運動学の再学習1	日高 俊和	演習
12	2	国家試験の過去問題をベースにした運動学の再学習2	日高 俊和	演習
13	2	国家試験の過去問題をベースにした運動学の再学習3	日高 俊和	演習
14	2	国家試験の過去問題をベースにした運動学の再学習4	日高 俊和	演習
15	2	国家試験の過去問題をベースにした運動学の再学習5	日高 俊和	演習
16	2	国家試験の過去問題をベースにした人間発達学・小児科学の再学習1	日高 俊和	演習
17	2	国家試験の過去問題をベースにした人間発達学・小児科学の再学習2	日高 俊和	演習
18	2	国家試験の過去問題をベースにした人間発達学・小児科学の再学習3	日高 俊和	演習
19	2	国家試験の過去問題をベースにした内科学の再学習1	日高 俊和	演習
20	2	国家試験の過去問題をベースにした内科学の再学習2	日高 俊和	演習
21	2	国家試験の過去問題をベースにした内科学の再学習3	日高 俊和	演習
22	2	国家試験の過去問題をベースにした臨床神経医学の再学習1	日高 俊和	演習
23	2	国家試験の過去問題をベースにした臨床神経医学の再学習2	日高 俊和	演習
24	2	国家試験の過去問題をベースにした臨床神経医学の再学習3	日高 俊和	演習
25	2	国家試験の過去問題をベースにした臨床心理学の再学習1	日高 俊和	演習
26	2	国家試験の過去問題をベースにした臨床心理学の再学習2	日高 俊和	演習
27	2	国家試験の過去問題をベースにした臨床心理学の再学習3	日高 俊和	演習
28	2	国家試験の過去問題をベースにした精神医学の再学習1	日高 俊和	演習
29	2	国家試験の過去問題をベースにした精神医学の再学習2	日高 俊和	演習
30	2	国家試験の過去問題をベースにした精神医学の再学習3	日高 俊和	演習
31	2	国家試験の過去問題をベースにした精神医学の再学習4	日高 俊和	演習
32	2	国家試験の過去問題をベースにした整形外科科学の再学習1	日高 俊和	演習
33	2	国家試験の過去問題をベースにした整形外科科学の再学習2	日高 俊和	演習
34	2	国家試験の過去問題をベースにした整形外科科学の再学習3	日高 俊和	演習
35	2	国家試験の過去問題をベースにしたリハビリテーション概論の再学習1	日高 俊和	演習
36	2	国家試験の過去問題をベースにしたリハビリテーション概論の再学習2	日高 俊和	演習
37	2	国家試験の過去問題をベースにしたリハビリテーション概論の再学習3	日高 俊和	演習
38	2	まとめ学習1	日高 俊和	演習
39	2	まとめ学習2	日高 俊和	演習
40	2	まとめ学習3	日高 俊和	演習

総括的評価

2回の試験を実施し判定します

教科書:

参考書:

その他の資料: 国家試験や模擬試験の問題を配布します

担当教員から

3年間の総仕上げです 頑張って結果を出して行きましょう

実務経験のある教員による実践的授業

3年次 後期(4単位: 80時間)

(授業概要)

国家試験の専門分野の再学習

(教育目標)

国家試験で問われるレベルのしっかりした知識の獲得

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	国家試験の過去問題をベースにした「作業活動」の再学習1	日高 俊和	演習
2	2	国家試験の過去問題をベースにした「作業活動」の再学習2	日高 俊和	演習
3	2	国家試験の過去問題をベースにした「作業療法概論」の再学習1	日高 俊和	演習
4	2	国家試験の過去問題をベースにした「作業療法概論」の再学習2	日高 俊和	演習
5	2	国家試験の過去問題をベースにした「評価法」の再学習1	日高 俊和	演習
6	2	国家試験の過去問題をベースにした「評価法」の再学習2	日高 俊和	演習
7	2	国家試験の過去問題をベースにした「評価法」の再学習3	日高 俊和	演習
8	2	国家試験の過去問題をベースにした「評価法」の再学習4	日高 俊和	演習
9	2	国家試験の過去問題をベースにした「ADL」の再学習1	日高 俊和	演習
10	2	国家試験の過去問題をベースにした「ADL」の再学習2	日高 俊和	演習
11	2	国家試験の過去問題をベースにした「ADL」の再学習3	日高 俊和	演習
12	2	国家試験の過去問題をベースにした「義肢装具」の再学習1	日高 俊和	演習
13	2	国家試験の過去問題をベースにした「義肢装具」の再学習2	日高 俊和	演習
14	2	国家試験の過去問題をベースにした「義肢装具」の再学習3	日高 俊和	演習
15	2	国家試験の過去問題をベースにした「老年期障害」の再学習1	日高 俊和	演習
16	2	国家試験の過去問題をベースにした「老年期障害」の再学習2	日高 俊和	演習
17	2	国家試験の過去問題をベースにした「老年期障害」の再学習3	日高 俊和	演習
18	2	国家試験の過去問題をベースにした「老年期障害」の再学習4	日高 俊和	演習
19	2	国家試験の過去問題をベースにした「脳血管障害」の再学習1	日高 俊和	演習
20	2	国家試験の過去問題をベースにした「脳血管障害」の再学習2	日高 俊和	演習
21	2	国家試験の過去問題をベースにした「脳血管障害」の再学習3	日高 俊和	演習
22	2	国家試験の過去問題をベースにした「脳血管障害」の再学習4	日高 俊和	演習
23	2	国家試験の過去問題をベースにした「神経変性・筋障害」の再学習1	日高 俊和	演習
24	2	国家試験の過去問題をベースにした「神経変性・筋障害」の再学習2	日高 俊和	演習
25	2	国家試験の過去問題をベースにした「神経変性・筋障害」の再学習3	日高 俊和	演習
26	2	国家試験の過去問題をベースにした「内科学」の再学習1	日高 俊和	演習
27	2	国家試験の過去問題をベースにした「内科学」の再学習2	日高 俊和	演習
28	2	国家試験の過去問題をベースにした「内科学」の再学習3	日高 俊和	演習
29	2	国家試験の過去問題をベースにした「脊髄損傷」の再学習1	日高 俊和	演習
30	2	国家試験の過去問題をベースにした「脊髄損傷」の再学習2	日高 俊和	演習
31	2	国家試験の過去問題をベースにした「脊髄損傷」の再学習3	日高 俊和	演習
32	2	国家試験の過去問題をベースにした「脊髄損傷」の再学習4	日高 俊和	演習
33	2	国家試験の過去問題をベースにした「RA・整形疾患」の再学習1	日高 俊和	演習
34	2	国家試験の過去問題をベースにした「RA・整形疾患」の再学習2	日高 俊和	演習
35	2	国家試験の過去問題をベースにした「精神障害」の再学習1	日高 俊和	演習
36	2	国家試験の過去問題をベースにした「精神障害」の再学習2	日高 俊和	演習
37	2	国家試験の過去問題をベースにした「精神障害」の再学習3	日高 俊和	演習
38	2	国家試験の過去問題をベースにした「小児科学」の再学習1	日高 俊和	演習
39	2	国家試験の過去問題をベースにした「小児科学」の再学習2	日高 俊和	演習
40	2	国家試験の過去問題をベースにした「小児科学」の再学習3	日高 俊和	演習

総括的評価

2回の試験を実施し判定します

教科書:

参考書:

その他の資料: 国家試験や模擬試験の問題を配布します

担当教員から

3年間の総仕上げです 頑張って結果を出して行きましょう

実務経験のある教員による実践的授業

2年次 後期(1単位:30時間)

(授業概要)

・鹿児島就労支援施設を知り作業療法士としての役割を理解する

(教育目標)

・就労支援での作業療法士の役割を理解し説明できる  
 ・就労支援のイメージができる

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	就労支援について	宇都 未佑	講義
2	2	就労支援に関する理論	宇都 未佑	講義
3	2	障がい者と職業について理解する	宇都 未佑	講義
4	2	事例検討にて障がい者の生活を知る	宇都 未佑	講義
5	2	事例検討にて障がい者の生活を知る	宇都 未佑	講義
6	2	身体障害者の機能障害、制度について知る	宇都 未佑	講義
7	2	ここが変だよ健常者で意見交換している、障害者の気持ちを学ぶ	宇都 未佑	講義
8	2	障がい者に対する法律や支援法について学ぶ	宇都 未佑	講義
9	2	生活保護の条件 社会保障 など関連法規について知る	宇都 未佑	講義
10	2	生活保護の条件 社会保障 など関連法規についてまとめる	宇都 未佑	講義
11	2	鹿児島にある就労支援施設の紹介	宇都 未佑	講義
12	2	鹿児島にある就労支援施設の紹介	宇都 未佑	講義
13	2	しょうぶ学園紹介	宇都 未佑	講義
14	2	しょうぶ学園紹介	宇都 未佑	講義
15	2	症例検討	宇都 未佑	演習

総括的評価

レポート提出や発表にて評定する

教科書：職業関連活動

参考書：

その他の資料：

担当教員から

どうしても症例さんの対象者が高齢者はイメージが出来るが就労支援の活動にはつながりにくく反応が薄くなっている。比較的若い方や精神障がい者の方への社会参加にも関わることが必要であることを映像を通して理解できるようになってほしい。

実務経験のある教員による実践的授業

臨床経験のある作業療法士が中途障がい者の心理変化など経験を持って講義をする。職業復帰しても継続することの難しさ、その原因について触れる。また作業療法士の職業域や役割について、鹿児島就労支援施設を題材にして興味を引き出していく。

2年次 前期・後期(2単位:40時間)

(授業概要)

・地域という概論から地元に興味を持ち、自分の住んでいるサービスについて理解を図る

(教育目標)

- ・地元に興味を持ちその土地の特徴を知る
- ・サービス内容の理解と症例さんに必要なことを考えどう提供していくか検討する
- ・サービス利用の説明ができる

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	地域とはなにか	宇都 未佑	講義
2	2	地域にあるサービスはなにか	宇都 未佑	講義
3	2	社会保障制度とはなにか	宇都 未佑	講義
4	2	幸せな暮らしとはなにか。老老介護や認知症の実態	宇都 未佑	講義
5	2	介護保険について	宇都 未佑	講義
6	2	予防リハビリテーション。健康高齢者を増やす習慣・体操を知る	宇都 未佑	講義
7	2	予防リハビリテーション。健康高齢者を増やす習慣・体操を考える	宇都 未佑	演習
8	2	片手で出来る安全で楽しい料理を知る	宇都 未佑	講義
9	2	片手で出来る料理を考案する 体験	宇都 未佑	演習
10	2	片手で出来る料理を考案する 体験	宇都 未佑	演習
11	2	事例検討 介護保険について復習	宇都 未佑	講義
12	2	訪問リハビリテーションや地域サービスについて	宇都 未佑	講義
13	2	訪問リハビリテーションや地域サービスについて	宇都 未佑	講義
14	2	訪問リハビリテーションや地域サービスについて	宇都 未佑	講義
15	2	訪問リハビリテーションや地域サービスについて	宇都 未佑	講義
16	2	住宅改修について	宇都 未佑	講義
17	2	住宅改修について 過去問題で理解を深める	宇都 未佑	講義
18	2	介護保険を理解し地域で可能なサービスを症例を通し学ぶ・考える	宇都 未佑	講義
19	2	チームアプローチについて理解し他職種役割を検討する	宇都 未佑	講義
20	2	高齢者への運動アプローチを説明できる	宇都 未佑	講義

総括的評価

レポート提出

教科書: 地域作業療法

参考書: 老年学

その他の資料:

担当教員から

地域に作業療法士が求められる現状は理解できたと思うが、サービスの理解に関してはイメージしにくいことが多い。そのため現場で実際訪問をされている先生から作業療法士が行っている仕事を話して頂くことでよりイメージできているようだ。

実務経験のある教員による実践的授業

地域で可能なサービスを知り、サービス内容を理解する。事例検討を通し、ネットワークやチームアプローチの重要性に気づき作業療法士として必要な動きをイメージする。また、臨床経験のある作業療法士が調理動作など実際に経験することでアプローチの幅が広がるよう興味を持てるように促す。



1年次 前期(1単位：30時間)

(授業概要)

安全・安楽な動作とはどんな介助が必要であるのかを知り人の正常な動きを理解し支援につなげる。

(教育目標)

- ・安全にできる動作を実生活につながるように支援を実践できる
- ・今から行う動作の説明を適切に伝わるように行える

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	介護技術とは？介護とリハビリの違いについて説明する。	宇都 未佑	講義
2	2	起居動作の理解や介助方法	宇都 未佑	演習
3	2	起居動作の理解や介助方法	宇都 未佑	演習
4	2	車いす操作について・車いすの名称(小テスト)	宇都 未佑	演習
5	2	車いす移乗(全介助・一部介助)	宇都 未佑	演習
6	2	三角巾や間代の介助方法について	宇都 未佑	演習
7	2	三角巾や間代の介助方法について	宇都 未佑	演習
8	2	褥瘡予防と体位変換について	宇都 未佑	演習
9	2	起居動作・車いす操作・三角巾の支援方法を練習	宇都 未佑	演習
10	2	起居動作・車いす操作・三角巾の支援方法を練習	宇都 未佑	演習
11	2	起居動作・車いす操作・三角巾の支援方法を練習	宇都 未佑	演習
12	2	起居動作・車いす操作・三角巾の支援方法を練習	宇都 未佑	演習
13	2	方麻痺体験キットにより動きにくさを経験する	宇都 未佑	演習
14	2	症例を通じて支援方法を検討する	宇都 未佑	演習
15	2	症例を通じて支援方法を検討する	宇都 未佑	演習

総括的評価

症例を挙げどのように支援するのか実技テストにて判断する。

教科書：プリント スライド使用

参考書：絵で見る介護 介助にいかすバイオメカニクス わかりやすい移動の仕方

その他の資料：

担当教員から

健常者同士の実技練習しか行えないがクラスにも身長や体形さまざまな学生がおりいろんな人で練習行っていたように思う。場面設定やいくつかの条件下での練習を多く取り入れていきたい。

実務経験のある教員による実践的授業

臨床経験のある作業療法士がボディーメカニクスから学ぶ腰痛予防や安全な介助方法について手続き記憶を使い技術を習得する。また、介護とリハビリの違いを理解しアプローチできるよう講義と実技で実践していく。

授業科目名 見学実習

担当教員: 谷口 慶子

1年次 前期(1単位:45時間)

(授業概要)

近隣の医療施設等へ赴き、リハビリテーションスタッフの職場環境、作業療法士や他の医療従事者とのかかわりについて学び、自分の目指す作業療法士像のイメージを創ることを目的とする。

(教育目標)

- ① 作業療法の実際を“見学・体験”学習する。
- ② 作業療法士としての1日の業務の流れを学習する。
- ③ 医療人としての良識ある行動を学ぶ。
- ④ リスク管理について学ぶ。
- ⑤ 守秘義務の重要性を学ぶ。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1 日目	8	見学実習(身体機能分野)	谷口 慶子	実習
2 日目	8	見学実習(身体機能分野)	谷口 慶子	実習
3 日目	8	見学実習(身体機能分野)	谷口 慶子	実習
4 日目	8	見学実習(精神機能分野)	谷口 慶子	実習
5 日目	8	見学実習(精神機能分野)	谷口 慶子	実習
6 日目	8	見学実習(精神機能分野)	谷口 慶子	実習

総括的評価

デイリーレポート、感想レポートで総合的に評価する。

教科書: 実習の手引き

参考書:

その他の資料:

担当教員から

失礼のないように身だしなみや言動には十分気をつけること。患者様に誠意をもって接することを心がけてほしい。

実務経験のある教員による実践的授業

2年次 後期（3単位：135時間）

（授業概要）

学生毎に身体機能分野の医療機関に赴き、臨床実習指導者のもと、症例に即した評価方法の選択、評価手技の実施を行い、評価をもとに抽出された問題点から障害象を把握する過程を学ぶことを目的としている。

（教育目標）

- 1) 臨床での経験を通じて、学校で学んだ知識・技術の統合に努め、作業療法士に必要な臨床的評価技術を身につける。
- 2) 作業療法の役割を認識する。
- 3) 医療人としての基本的な態度を身に付けると共に、対者の人権を保護することの重要性を学ぶ。
- 4) 対象者への評価体験を通して、自己の認識を深め、生涯を通しての自己啓発への持続的な努力の必要性を実感する。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1 週 目	45	評価実習(身体機能分野)	宇都 未祐	実習
2 週 目	45	評価実習(身体機能分野)	宇都 未祐	実習
3 週 目	45	評価実習(身体機能分野)	宇都 未祐	実習
4 週 目	45	評価実習(身体機能分野)	宇都 未祐	実習

総括的評価

デイリーレポート、感想レポート、評価レポート、実習指導者評定、実習後セミナーで総合的に評価する。

教科書：・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学  
・標準整形外科学 第13版 ・脳卒中最前線 ・ADLとその周辺 ～評価・指導・介護の実際～

参考書：

その他の資料：

担当教員から

現場の先生方、患者様は善意でご協力して下さっています。失礼のないように身だしなみ言動には十分気をつけてください。

実務経験のある教員による実践的授業

2年次 後期（3単位：135時間）

（授業概要）

学生毎に精神機能分野の医療機関に赴き、臨床実習指導者のもと、症例に即した評価方法の選択、評価手技の実施を行い、評価をもとに抽出された問題点から障害象を把握する過程を学ぶことを目的としている。

（教育目標）

- 1) 臨床での経験を通じて、学校で学んだ知識・技術の統合に努め、作業療法士に必要な臨床的評価技術を身につける。
- 2) 作業療法の役割を認識する。
- 3) 医療人としての基本的な態度を身に付けると共に、対者の人権を保護することの重要性を学ぶ。
- 4) 対象者への評価体験を通して、自己の認識を深め、生涯を通しての自己啓発への持続的な努力の必要性を実感する。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1 週 目	45	評価実習（精神機能分野）	谷口 慶子	実習
2 週 目	45	評価実習（精神機能分野）	谷口 慶子	実習
3 週 目	45	評価実習（精神機能分野）	谷口 慶子	実習
4 週 目	45	評価実習（精神機能分野）	谷口 慶子	実習

総括的評価

デイリーレポート、感想レポート、評価レポート、実習指導者評定、実習後セミナーで総合的に評価する。

教科書：精神障害と作業療法 新版

参考書：つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル

その他の資料：

担当教員から

現場の先生方、患者様は善意でご協力して下さっています。失礼のないように身だしなみ言動には十分気をつけてください。

実務経験のある教員による実践的授業

3年次 前期(1単位:45時間)

(授業概要)

学生毎に訪問リハビリテーションもしくは通所リハビリテーションに赴き、指導者のもと、地域における症例に即したリハビリテーションを見学体験し、地域におけるリハビリテーションの実際を体験し学ぶことを目的としている。

(教育目標)

- ① 地域作業療法の実際を“見学・体験”学習する。
- ② 地域リハにおける作業療法士としての1日の業務の流れを学習する。
- ③ 医療人としての良識ある行動を学ぶ。
- ④ リスク管理について学ぶ。
- ⑤ 守秘義務の重要性を学ぶ。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1 日目	8	見学実習(地域リハ分野)	谷口 慶子	実習
2 日目	8	見学実習(地域リハ分野)	谷口 慶子	実習
3 日目	8	見学実習(地域リハ分野)	谷口 慶子	実習
4 日目	8	見学実習(地域リハ分野)	谷口 慶子	実習
5 日目	8	見学実習(地域リハ分野)	谷口 慶子	実習
6 日目	8	見学実習(地域リハ分野)	谷口 慶子	実習

総括的評価

デイリーレポート、感想レポートで総合的に評価する。

教科書: 実習の手引き

参考書:

その他の資料:

担当教員から

失礼のないように身だしなみや言動には十分気をつけること。患者様に誠意をもって接することを心がけてほしい。

実務経験のある教員による実践的授業

授業科目名: 臨床実習 I

担当教員: 日高俊和

3年次 前期( 8単位:360時間)

(授業概要)

患者を適切に評価、統合解釈、問題を把握し、その問題に応じた作業療法プログラムを設定し、実施する。さらに、再評価により治療効果を科学的に検討し、より良い治療法を選択できる能力を高める。また、作業療法の社会的役割とチームワークの重要性、倫理的、法的責任を理解し、作業療法実施上の総合的能力を高める。

(教育目標)

- 1) 臨床での経験を通じて、学校で学んだ知識・技術の統合に努め、作業療法士に必要な臨床的評価、治療技術を身につける。
- 2) 作業療法の役割を認識する。
- 3) 医療人としての基本的な態度を身に付けると共に、対者の人権を保護することの重要性を学ぶ。
- 4) 症例への評価、治療体験を通して、自己の認識を深め、生涯を通しての自己啓発への持続的な努力の必要性を実感する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1 週 目	45	臨床実習(身体機能分野)	日高 俊和	実習
2 週 目	45	臨床実習(身体機能分野)	日高 俊和	実習
3 週 目	45	臨床実習(身体機能分野)	日高 俊和	実習
4 週 目	45	臨床実習(身体機能分野)	日高 俊和	実習
5 週 目	45	臨床実習(身体機能分野)	日高 俊和	実習
6 週 目	45	臨床実習(身体機能分野)	日高 俊和	実習
7 週 目	45	臨床実習(身体機能分野)	日高 俊和	実習
8 週 目	45	臨床実習(身体機能分野)	日高 俊和	実習

総括的評価

デイリーレポート、感想レポート、評価レポート、実習指導者評定、実習後セミナーで総合的に評価する。

教科書: ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学  
・標準整形外科学 第13版 ・脳卒中最前線 ・ADLとその周辺 ～評価・指導・介護の実際～

参考書:

その他の資料:

担当教員から

現場の先生方、患者様は善意でご協力して下さっています。失礼のないように身だしなみ言動には十分気をつけてください。

実務経験のある教員による実践的授業

3年次 前期( 8単位:360時間)

(授業概要)

患者を適切に評価、統合解釈、問題を把握し、その問題に応じた作業療法プログラムを設定し、実施する。さらに、再評価により治療効果を科学的に検討し、より良い治療法を選択できる能力を高める。また、作業療法の社会的役割とチームワークの重要性、倫理的、法的責任を理解し、作業療法実施上の総合的能力を高める。

(教育目標)

- 1) 臨床での経験を通じて、学校で学んだ知識・技術の統合に努め、作業療法士に必要な臨床的評価、治療技術を身につける。
- 2) 作業療法の役割を認識する。
- 3) 医療人としての基本的な態度を身に付けると共に、対者の人権を保護することの重要性を学ぶ。
- 4) 症例への評価、治療体験を通して、自己の認識を深め、生涯を通しての自己啓発への持続的な努力の必要性を実感する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1 週 目	45	臨床実習(精神機能分野)	長井 龍	実習
2 週 目	45	臨床実習(精神機能分野)	長井 龍	実習
3 週 目	45	臨床実習(精神機能分野)	長井 龍	実習
4 週 目	45	臨床実習(精神機能分野)	長井 龍	実習
5 週 目	45	臨床実習(精神機能分野)	長井 龍	実習
6 週 目	45	臨床実習(精神機能分野)	長井 龍	実習
7 週 目	45	臨床実習(精神機能分野)	長井 龍	実習
8 週 目	45	臨床実習(精神機能分野)	長井 龍	実習

総括的評価

デイリーレポート、感想レポート、評価レポート、実習指導者評定、実習後セミナーで総合的に評価する。

教科書: 精神障害と作業療法 新版

参考書:

その他の資料:

担当教員から

現場の先生方、患者様は善意でご協力して下さっています。失礼のないように身だしなみ言動には十分気をつけてください。

実務経験のある教員による実践的授業